

報告事項 2 資料No. 4

守谷市

第3期子ども・子育て支援事業計画策定に関する
アンケート調査報告書（概要版）

令和6年5月

守谷市

目 次

I. 調査の概要	1
調査の概要	3
II. 前回調査との乖離の大きかった設問等（就学前児童調査）	15
III. 前回調査との乖離の大きかった設問等（就学児童調査）	33
IV. 前回調査との乖離の大きかった設問等（妊娠期調査）	41

I . 調査の概要

調査の概要

(1) 目 的

第三期守谷市子ども・子育て支援事業計画の策定にあたり、市民の皆様より子ども・子育て支援に関するご家庭の実情やニーズ、ご意見等を把握するためのアンケート調査を実施しました。

(2) 調査期間

令和6年3月6日（水）～ 令和6年3月22日（金）

(3) 調査対象者

守谷市内に在住で、0～5歳までの未就学児童、小学生児童、および妊娠期の方から無作為に抽出し、調査依頼文書を郵送いたしました。

(4) 配布数及び回答数

Web 調査	配布数	回収数	回収率
就学前児童調査	1,175 件	472 件	40.2%
就学児童調査	1,175 件	463 件	39.4%
妊娠期調査	131 件	53 件	40.5%

【調査項目】

1. お住まいの地域について
2. お子さんご家族の状況について
3. 子どもの育ちをめぐる環境について
4. お子さんの保護者の就労状況について
5. 平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況について
6. 地域子育て支援事業の利用状況について
7. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について
8. 子どもの病気の際の対応について
9. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について
10. 小学校就学後の放課後の過ごし方について
11. 児童クラブ・放課後子ども教室の利用状況について
12. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について
13. 子育ての環境や支援への満足度について

【調査結果】

以下、妊娠期は「妊娠期」、就学前児童保護者は「就学前」、小学生児童保護者は「小学生」ということとします。

1. お住まいの地域について（報告書 就学前7頁、小学生79頁、妊娠期121頁）

お住まいの地域は、「守谷市松並青葉」地区がどの対象でも最も多く、就学前が2割台半ば、小学生と妊娠期がともに1割台半ばとなっています。次いで就学前では「守谷市本町」地区が1割台、小学生では「守谷市本町」地区と「守谷市松ヶ丘」地区と「守谷市ひがし野」地区が1割台、妊娠期では「守谷市松並青葉」地区と並んで、「守谷市本町」地区と「守谷市中央」地区と「守谷市ひがし野」地区がそれぞれ1割台半ばで最も多くなっています。どの対象もこの4地区で4割以上を占めます。

2. お子さんご家族の状況について

（報告書 就学前8・9頁、小学生80・82頁、妊娠期123・125頁）

この項目は妊娠期と就学前・小学生で設問の構成が異なります。妊娠期の場合は、初めて母子健康手帳の交付を受けた妊婦が対象であるため、家族の状況というよりも、情報や相談に關しての設問を取り入れました。

配偶関係は就学前、小学生とも「配偶者がいる」が9割を超え、「配偶者はいない」は就学前が1.9%、小学生が7.3%となっています。

子育てを主に行っている人は、就学前、小学生とも「父母ともに」が多く、就学前では6割、小学生では5割半を超えていて、「主に母親」が就学前では3割台半ば、小学生では4割台となっています。

前回調査と比較すると「父母ともに」子育てをするご家庭が増加傾向にあるようで、特に就学前児童のいるご家庭にはその傾向が強いようです。

妊娠期で、必要な情報の取得状況が「得られている」は、“妊娠中の過ごし方について”が8割台半ばで最も多く、“妊娠出産に関する制度について”と“出産・分娩に関することについて”がともに5割半を超えています。回答者の置かれている状況の関係からか、「得られていない」は、“子育てを支援してくれる制度について”が2割を超え、“出産後のことについて”が1割台半ばとなっています。

妊娠・出産・子育て・教育に関して知りたい情報は、「子どもに関する手当（児童手当・医療費助成等）に関する情報」が8割台半ばと最も多く、「保育所・幼稚園・こども園等の受入れに関する情報」が8割を超え、「乳幼児健診、予防接種等に関する情報」が約8割となっています。

就学前・小学生では、どちらも子どもの数は「2人」が半数前後となっています。

3. 子どもの育ちをめぐる環境について

（報告書 就学前 10・12・14 頁、小学生 83・86・87 頁）

この項目は就学前と小学生でたずねました。

子どもの預かりについて、日頃、子どもをみてもらえる親族・知人がいる人（100%－「いずれもない」の割合－無回答の割合）は、就学前、小学生ともに7割を超えています。一方で「いずれもない」は2割台半ばとなっています。

子育てについて気軽に相談できる人や場所が「いる／ある」は就学前では8割半を超え、小学生では7割半を超えています。一方で、「いない／ない」は就学前で13.1%、小学生で23.1%となっています。

前回調査と比較すると「いない／ない」が増加傾向にあるようです。

周囲からのサポートに関しての意見は、就学前が回答者の約4割台半ば、小学生が約4割の方から寄せられました。意見の内容としては、就学前が「一時預かり事業の充実、利用料の減額」や「育児相談、アドバイス、話を聴いてもらえるなど精神的サポート」について、小学生が「子育てについてのアドバイスをいただけたら、相談に乗ってもらえるサポート」、「緊急時の一時預かりの場所」、「金銭的サポート」について多く寄せられました。

4. 保護者の就労状況について

（報告書 就学前 14・17・19 頁、小学生 87・90・92 頁、妊娠期 126・130 頁、）

保護者の就労状況をみると、就学前の母親は、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が2割台半ばとなっており、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が3割半を超え、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」を合わせた《フルタイム》の割合は5割を超えています。

小学生の母親は「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が約4割で最も多く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が3割半を超えています。

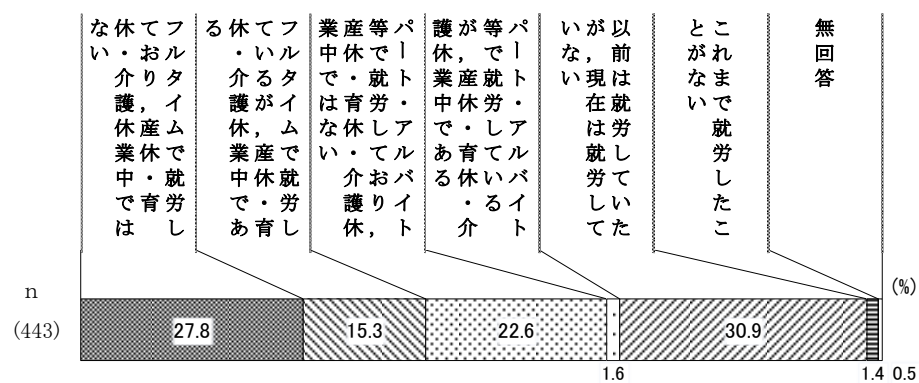
妊娠期の母親では、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が5割台半ばで、「フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である」が2割台半ばで多く、《フルタイム》は約8割となっています。

前回調査に比べて、就学前児童を持つ母親と妊娠期の母親の《フルタイム》での働き方が、増加している傾向にあります。

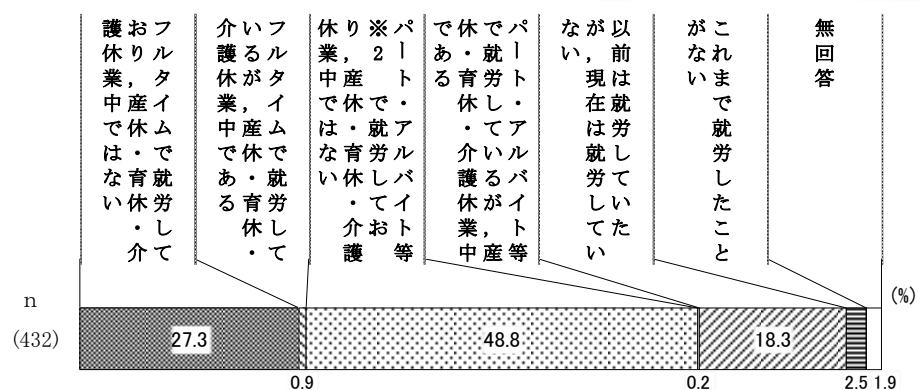
なお、父親については「フルタイム（休業中を含む）」は、妊娠期と就学前と小学生がそれぞれ9割台半ばとなっています。

《参考》平成 31 年度 母親の就労状況

【就学前】



【小学生】

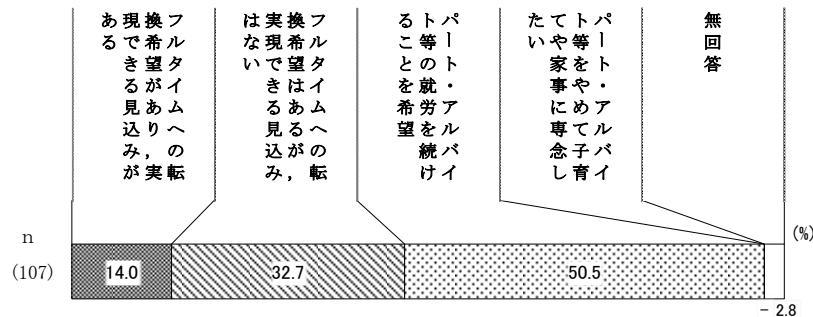


さらに、就学前・小学生については、母親がパート・アルバイト等で働いている場合のフルタイムへの転換希望をみると、実現見込みに関わらず転換希望がある人は就学前、小学生ともに4割台となっています。

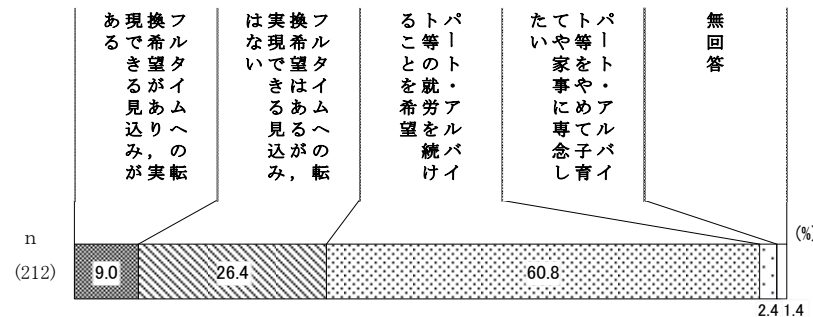
前回調査に比べて、就学児童を持つ母親の《フルタイム》への転換希望は、増加している傾向がみられます。

《参考》平成31年度 母親のフルタイムへの転換希望

【就学前】



【小学生】



5. 平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況について

(報告書 就学前 24・25・29・30・31・32 頁、妊娠期 133・134 頁)

現状としての教育・保育の事業の利用状況は就学前でのみたずねました。

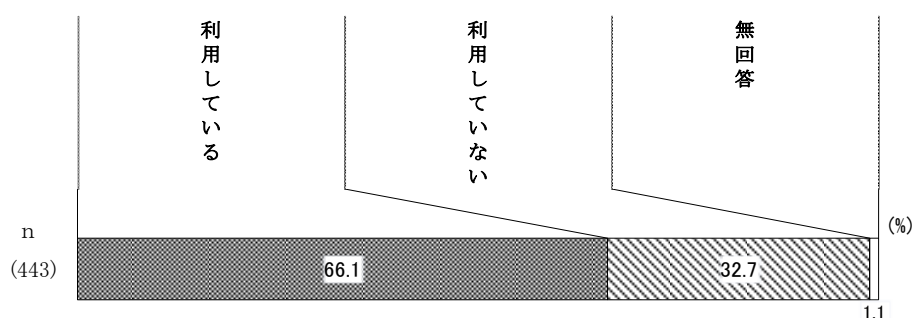
幼稚園や保育所などの定期的な教育・保育の事業を「利用している」は7割台半ばとなっています。

利用している事業の内容は、「認可保育所」が5割台半ば、「幼稚園」が3割となっています。

前回調査は参考として図示しています。前回は保育園や幼稚園を通じて調査を回収しているため、利用状況等が今回の調査結果よりも高めです。

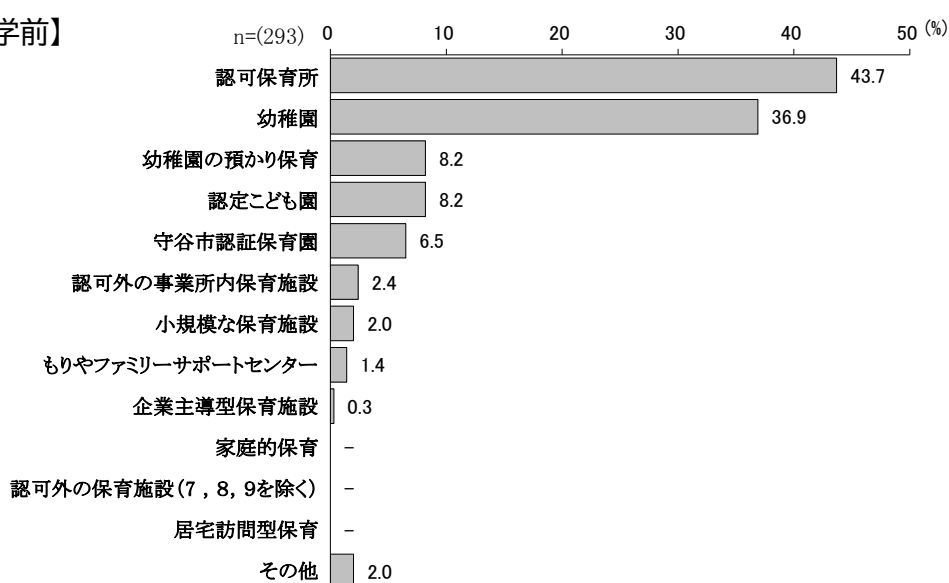
《参考》平成 31 年度 定期的な教育・保育事業の利用状況

【就学前】



《参考》平成 31 年度 定期的に利用している事業

【就学前】



今後利用したい事業については、就学前と妊娠期でたずねました。

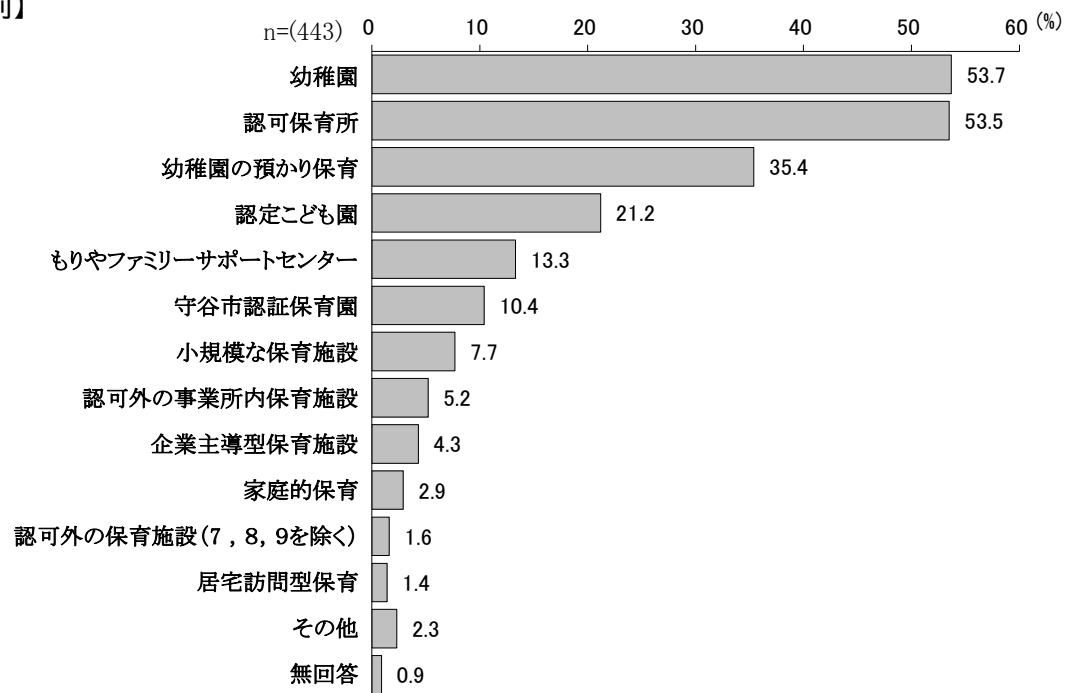
就学前では、「認可保育所」が約6割、「幼稚園」が4割台半ば、「幼稚園の預かり保育」が約3割となっています。

妊娠期では、「認可保育所」が7割台半ばと高くなっています。

前回調査は参考として図示しています。前回は保育園や幼稚園を通じて調査を回収しているため、利用状況での傾向がそのまま利用意向に影響しています。

《参考》平成 31 年度 定期的に利用したい事業

【就学前】



6. 地域子育て支援事業の利用状況について〈選択肢は対象により異なります〉

(報告書 就学前 33・34・35 頁、小学生 102～106 頁、妊娠期 137～142 頁)

地域子育て支援事業の認知度について、「はい(知っている)」割合は就学前児童では“地域子育て支援拠点事業”が8割で最も多く、“一時預かり事業”が4割となっています。小学生では“放課後児童健全育成事業”が7割、“もりやファミリーサポートセンター”が6割となっています。妊娠期で“地域子育て支援拠点事業”が3割超で最も多く、“一時預かり事業”や“妊産婦一般健康診査事業”、“保健センターの学級・講座”が3割と続いています。

利用経験については、「はい(利用したことがある)」割合は就学前で“地域子育て支援拠点事業”が5割、小学生は“放課後児童健全育成事業”が約4割となっています。妊娠期で“妊産婦一般健康診査事業”が2割台半ば、“保健センターの学級・講座”が2割となっています。

今後の利用希望として、「はい(利用したい)」割合は、就学前で“地域子育て支援拠点事業”が4割台半ばとなっており、小学生は“放課後子ども教室”が2割、妊娠期は“保健センターの学級・講座”が4割台半ばと最も多くなっています。

7. 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望について

(報告書 就学前 36～40 頁、妊娠期 135・136 頁)

この項目は妊娠期と就学前でたずねました。

土曜の定期的な教育・保育事業の利用希望は、「利用する必要はない」が就学前は7割、妊娠期では4割台半ばとなっています。

日曜日・祝日の利用希望は、「利用する必要はない」が就学前では8割、妊娠期が6割台半ばとなっています。

就学前にのみたずねた、長期休暇中の利用希望は、「休みの期間中、週に数日利用したい」が約5割となっています。

8. 子どもの病気の際の対応について

(報告書 就学前 41・42・43・44 頁、小学生 107・108・110 頁)

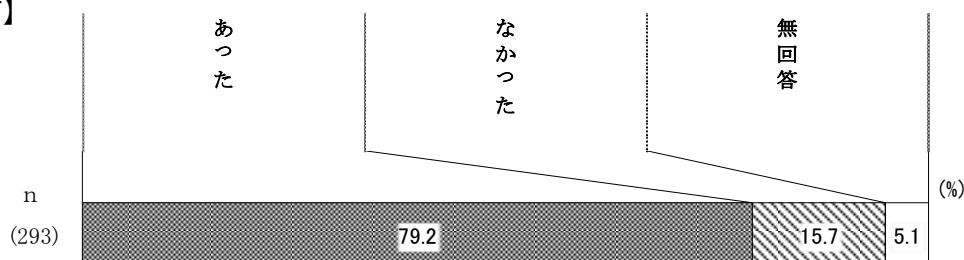
この項目は就学前と小学生でたずねました。

この1年間に病気やケガで通常の事業が利用できなかったことが「あった」は、就学前で7割、小学生では8割第半ばとなっています。

前回調査は、就学前にしかたずねていませんが、特に大きな違いはみられません。

《参考》平成31年度 病気やケガで通常の事業が利用できなかった経験

【就学前】



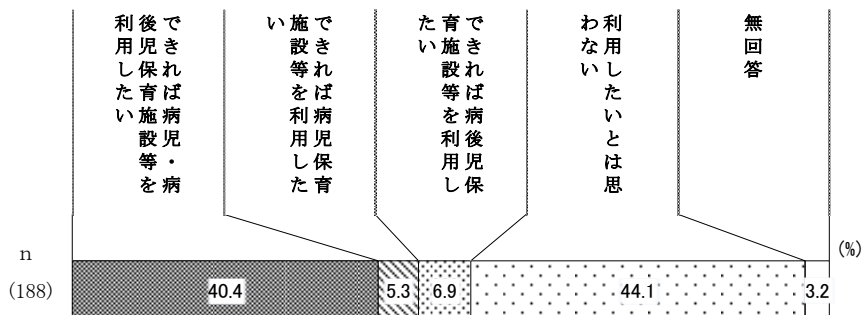
就学前の「あった」と回答した方の対処方法は、就学前では「母親が休んだ」が約8割、「父親が休んだ」が5割、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった」が3割と続いています。小学生では、「母親が休んだ」が約7割で最も多く、「父親が休んだ」、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」がそれぞれ2割後半、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった」が1割第後半となっています。

また、父親または母親が休んで子どもをみたことがある人に、病児・病後児保育施設の利用希望をたずねたところ、就学前は、「利用したいとは思わない」が5割台半ばで最も多くなっているものの、「できれば病児・病後児保育施設を利用したい」、「できれば病児保育施設等を利用したい」、「できれば病後児保育施設を利用したい」を合わせた《利用したい》は約4割となっています。小学生では、「利用したいとは思わない」が8割を超え最も多く、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は1割となっています。

前回調査は、就学前にしかたずねていませんが、就学前では病児・病後児保育施設を《利用したい》の割合に大きな変化はありませんでした。

《参考》平成 31 年度 病児・病後児保育施設の利用希望

【就学前】



9. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

〈選択肢は対象により異なります〉

(報告書 就学前 45～49 頁、小学生 111～116 頁)

この項目は就学前と小学生でたずねました。

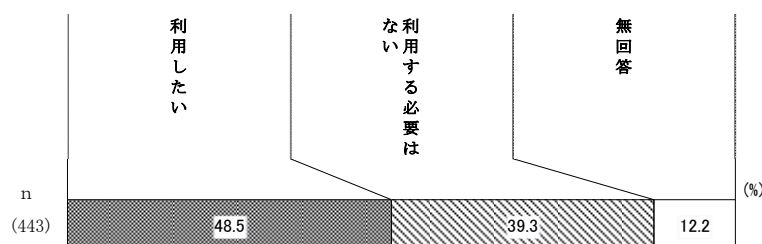
日中の定期的な利用以外で預かり事業等の不定期な利用経験は、就学前で「利用していない」が約6割となっています。利用している事業では「幼稚園の預かり保育」が1割超となっています。

小学生の一時預かり事業の利用状況については、「利用していない」が7割です。

今後の利用希望は、就学前で「利用したい」は約4割、小学生が1割第半ばとなっています。前回調査は、就学前にしかたずねていませんが、特に大きな違いはみられません。

《参考》平成 31 年度 一時預かりの今後の利用希望

【就学前】



また、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により短期入所生活援助事業の利用希望については、就学前では「利用する必要がない」が約9割となっています。

10. 小学校就学後の放課後の過ごし方について（報告書 就学前 50～58 頁）

この項目は、就学前でも5歳以上の子どもの保護者にのみたずねました。

小学校就学後に放課後を過ごさせたい場所として、低学年の時の希望日数は、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾等）」が5割第半ば、「自宅」と「児童クラブ（学童保育）」が4割第半ば、「放課後子ども教室」が2割となっています。

低学年の時の希望日数は、「児童クラブ（学童保育）」は「5日」が約6割で高くなっています。高学年になった時の希望日数では、「自宅」は「5日」が3割となっています。

児童クラブを利用したい人のうち土曜日の利用希望者が、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」と「高学年（4～6年生）になっても利用したい」を合わせた《利用したい》は2割台半ば、「利用する必要はない」が7割台半ばと高くなっています。

日曜・祝日の利用希望が、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」と「高学年（4～6年生）になっても利用したい」を合わせた《利用したい》は、1割未満となっています。

長期休暇中の児童クラブの利用希望は、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」が2割台半ば、「低学年（1～3年生）の間は利用したい」を合わせた《利用したい》は、約7割となっています。

11. 児童クラブ・放課後子ども教室の利用状況について（報告書 小学生 97～101 頁）

この項目は、小学生でたずねました。

児童クラブの利用状況は、「利用している」が3割となっており、その利用日数は「5日」が4割を超え最も多くなっています。

放課後子ども教室を再開したときに、「利用したい」が約4割です。

12. 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について〈選択肢は対象により異なります〉

（報告書 就学前 59・60 頁、妊娠期 143・144 頁）

この項目は妊娠期と就学前でたずねました。

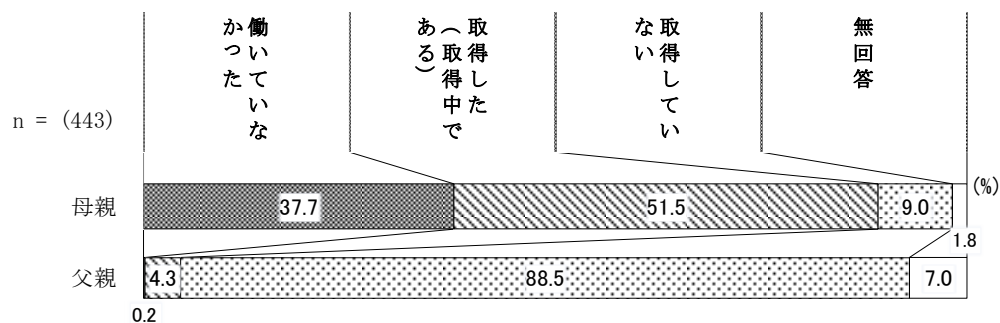
就学前児童の母親の取得状況は、「取得した（取得中である）」が約6割、父親は「取得していない」が7割台半ばとなっています。

妊娠期の母親の育児休業の取得意向は、「取得する（したい）」が8割超、父親は「取得しない」が約7割となっています。

前回調査よりも、取得率は高まっています。

《参考》平成 31 年度 母親の取得状況

【就学前】



13. 子育ての環境や支援への満足度について

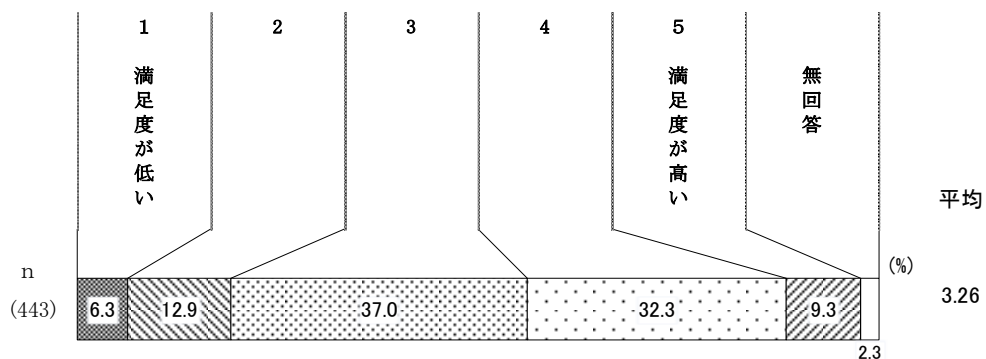
（報告書 就学前 75 頁、小学生 118 頁、妊娠期 150 頁）

子育ての環境や支援への満足度を 5 段階評価で聞いた平均点は、妊娠期が 3.40 点、就学前が 3.13 点、小学生が 3.03 点で、妊娠期が最も高くなっています。

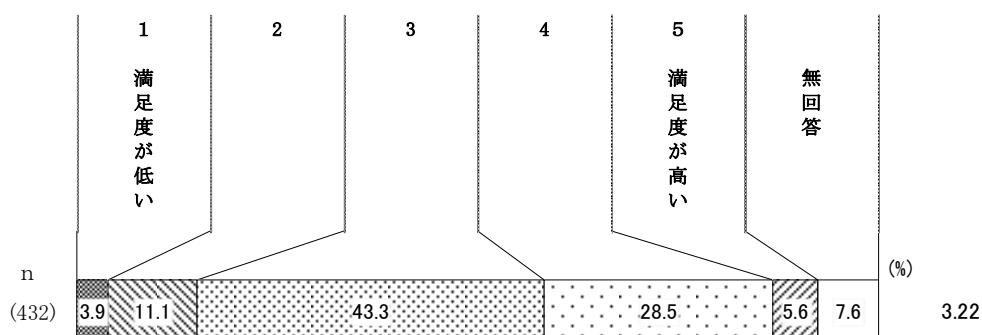
前回調査と比べると、妊娠期の平均点はほぼ変わっていませんが、就学前、小学生では微減傾向がみられます。

《参考》平成 31 年度 子育ての環境や支援への満足度

【就学前】



【小学生】



14. 自由回答（別紙：自由記述集）

子育ての環境や支援に関する意見を、市に対するものと国に対するものに分けて聞いたところ、市に対する意見は就学前の約5割を超え、小学生の4割、妊娠期の約3割の方から寄せられました。

意見の内容としては、就学前は「待機児童対策について」、「保育サービスについて」、「経済的な支援・手当の拡充」、「場（遊び場・居場所等）づくりについて」、小学生は「経済的な支援・手当について」、「教育・学校施設やシステムの充実改善」、「場（遊び場・居場所等）づくりについて」、「児童クラブ・学童クラブのサービスの拡大等の充実」、妊娠期は、「保育所の増設・待機児童対策」、「入所手続きの簡略化や情報の提供の充実」、「経済的な支援、手当の拡充」などについて寄せられました。

国に対する意見は就学前の3割台半ば、小学生の3割超、妊娠期の3割台半ば方から寄せられました。

意見の内容としては、就学前は「経済的な支援・手当について」、「幼稚園・保育園の無償化について」、「子育てしやすい就労環境の支援」、「給食費の無償化」など、また、小学生は「経済的な支援・手当について」、「子育てしやすい就労環境について」、「教育・学校施設やシステムの充実改善」、妊娠期は、「待機児童の対策・入所入園支援」、「待機児童の対策・入所入園支援」、「子育てしやすい就労環境の支援」、「経済的な支援、手当の拡充」などについて寄せられました。

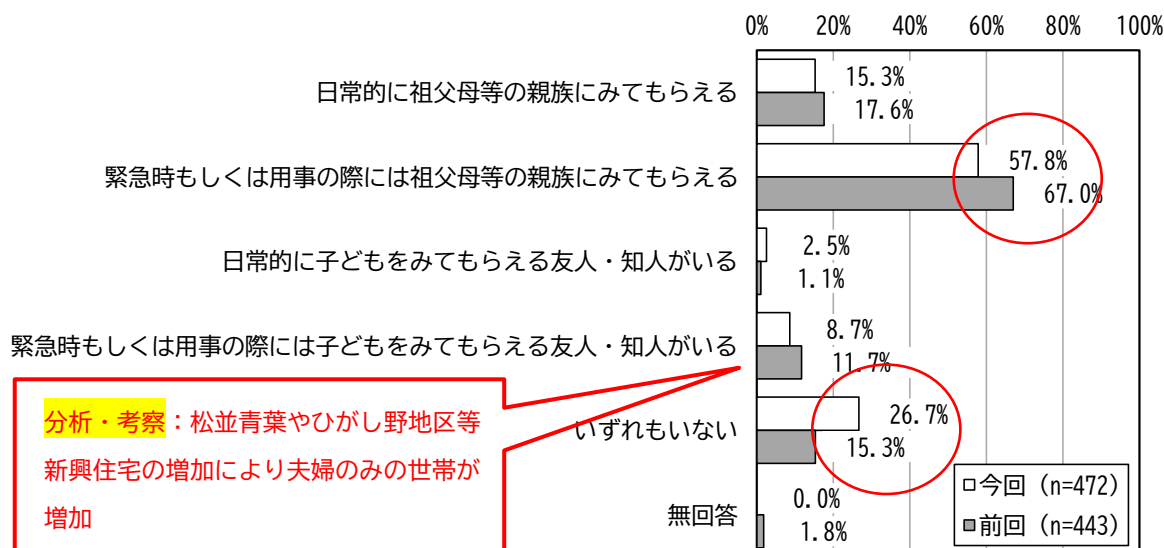
（5）今後のスケジュール

時期	実施事項
令和6年5月	分科会、審議会にニーズ調査分析結果報告
令和6年10月	分科会、審議会において、計画案を協議
令和6年11月	パブリックコメント実施
令和7年1月	分科会、審議会において、パブリックコメント報告 計画の諮問・答申

Ⅱ. 前回調査との乖離の大きかった設問等 (就学前児童調査)

**問8 保育所等施設の通所の有無に関わらず、日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。
(あてはまるものすべて選択)**

保育所等施設の通所の有無に関わらず、日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいるかについて、前回との比較では「いずれもない」で11.4ポイント増加、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」で9.2ポイント減少しています。

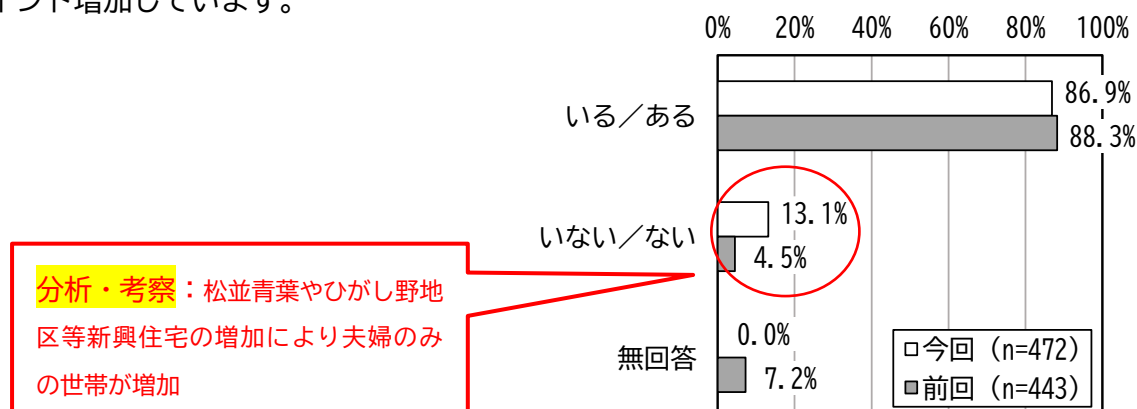


分析・考察：松並青葉やひがし野地区等新興住宅の増加により夫婦のみの世帯が増加

項目	今回		前回	
	度数	比率	度数	比率
日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	72	15.3%	78	17.6%
緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	273	57.8%	297	67.0%
日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	12	2.5%	5	1.1%
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	41	8.7%	52	11.7%
いずれもない	126	26.7%	68	15.3%
無回答	0	0.0%	8	1.8%
回答者数	472		443	

問9 お子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。（1つ選択）

お子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人、相談できる場所について、前回との比較では「いる／ある」で1.4ポイント減少に対し、「いない／ない」で8.6ポイント増加しています。



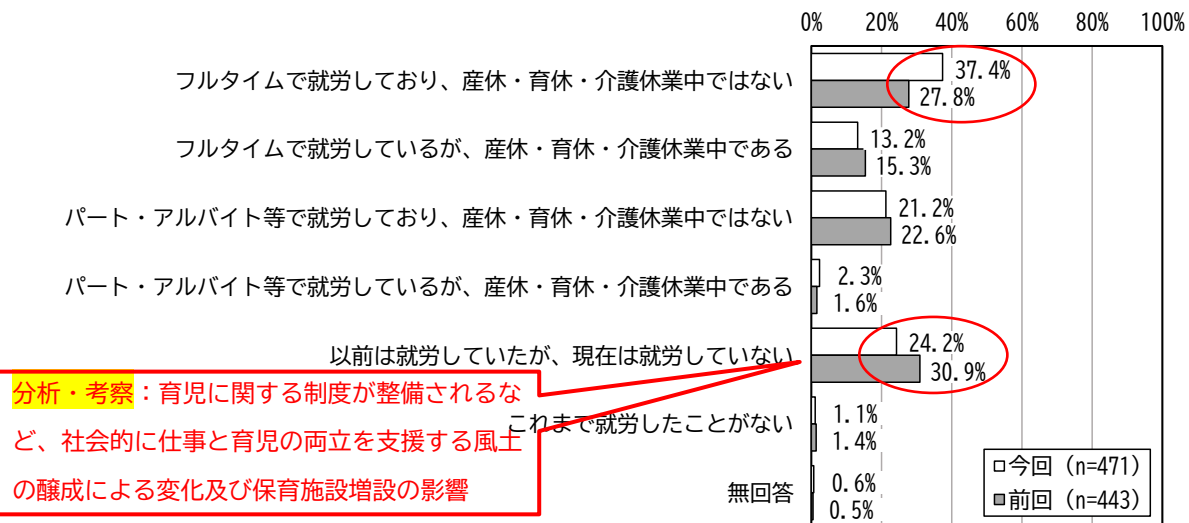
分析・考察：松並青葉やひがし野地区等新興住宅の増加により夫婦のみの世帯が増加

項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
いる／ある	410	86.9%	391	88.3%
いない／ない	62	13.1%	20	4.5%
無回答	0	0.0%	32	7.2%
合計	472	100.0%	443	100.0%

I. 就学前児童調査

問 11(1) お子さんの母親【父子家庭の場合は回答不要】の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。（1つ選択）

母親の現在の就労状況について、前回との比較では「フルタイム※で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」で 9.6 ポイント増加、「以前は就労していたが、現在は就労していない」で 6.7 ポイント減少しています。

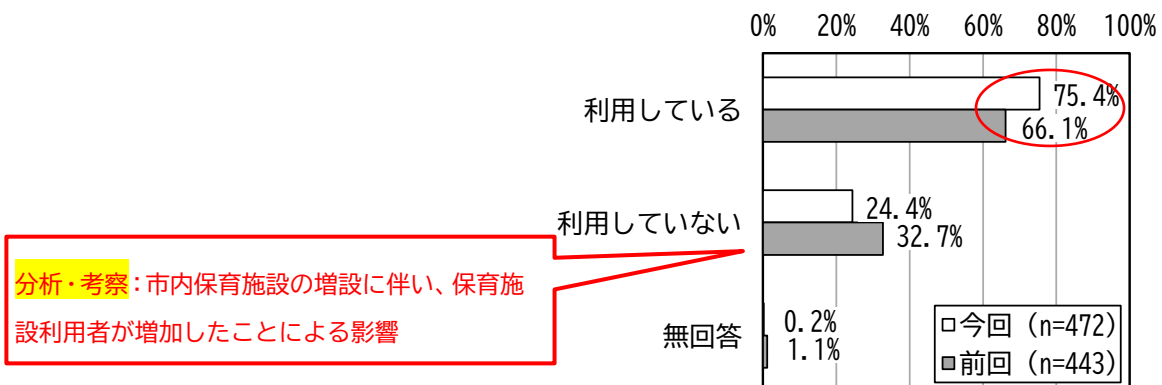


項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
フルタイム※で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	176	37.4%	123	27.8%
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	62	13.2%	68	15.3%
パート・アルバイト等※で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	100	21.2%	100	22.6%
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	11	2.3%	7	1.6%
以前は就労していたが、現在は就労していない	114	24.2%	137	30.9%
これまで就労したことがない	5	1.1%	6	1.4%
無回答	3	0.6%	2	0.5%
回答者数	471	100.0%	443	100.0%
非該当	1		-	
合計	472		443	

※フルタイム：週5日・1日8時間程度の就労／パート・アルバイト等：フルタイム以外の就労

問 12 お子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。（1つ選択）

お子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用しているかについて、前回との比較では「利用している」で 9.3 ポイント増加しています。



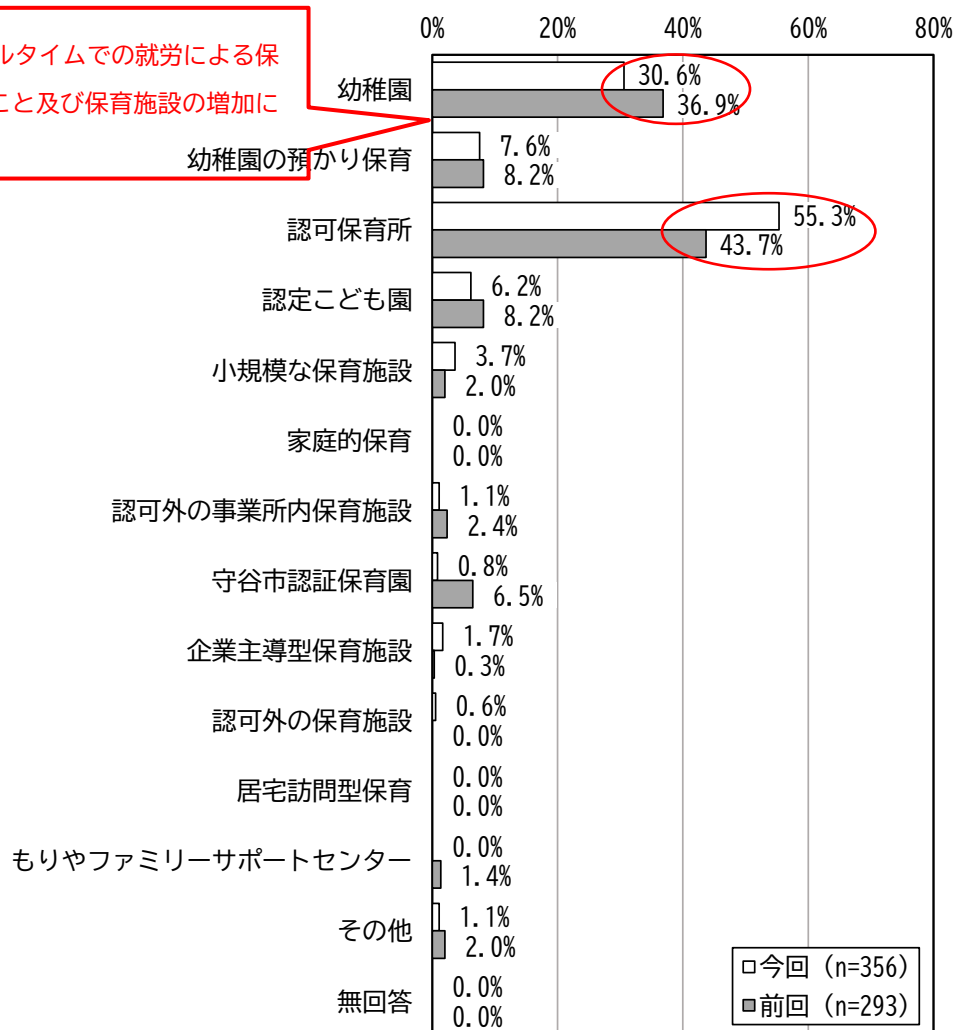
項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
利用している	356	75.4%	293	66.1%
利用していない	115	24.4%	145	32.7%
無回答	1	0.2%	5	1.1%
合計	472	100.0%	443	100.0%

問 12 で「利用している」を選択した方のみ回答

問 12-1 お子さんは、平日どのような事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。（あてはまるものすべて選択）

お子さんが、平日利用している事業について、前回との比較では「認可保育所」で 11.6 ポイント増加、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」で 6.3 ポイント減少しています。

分析・考察：両親のフルタイムでの就労による保育ニーズが高まったこと及び保育施設の増加に伴った利用者の増加



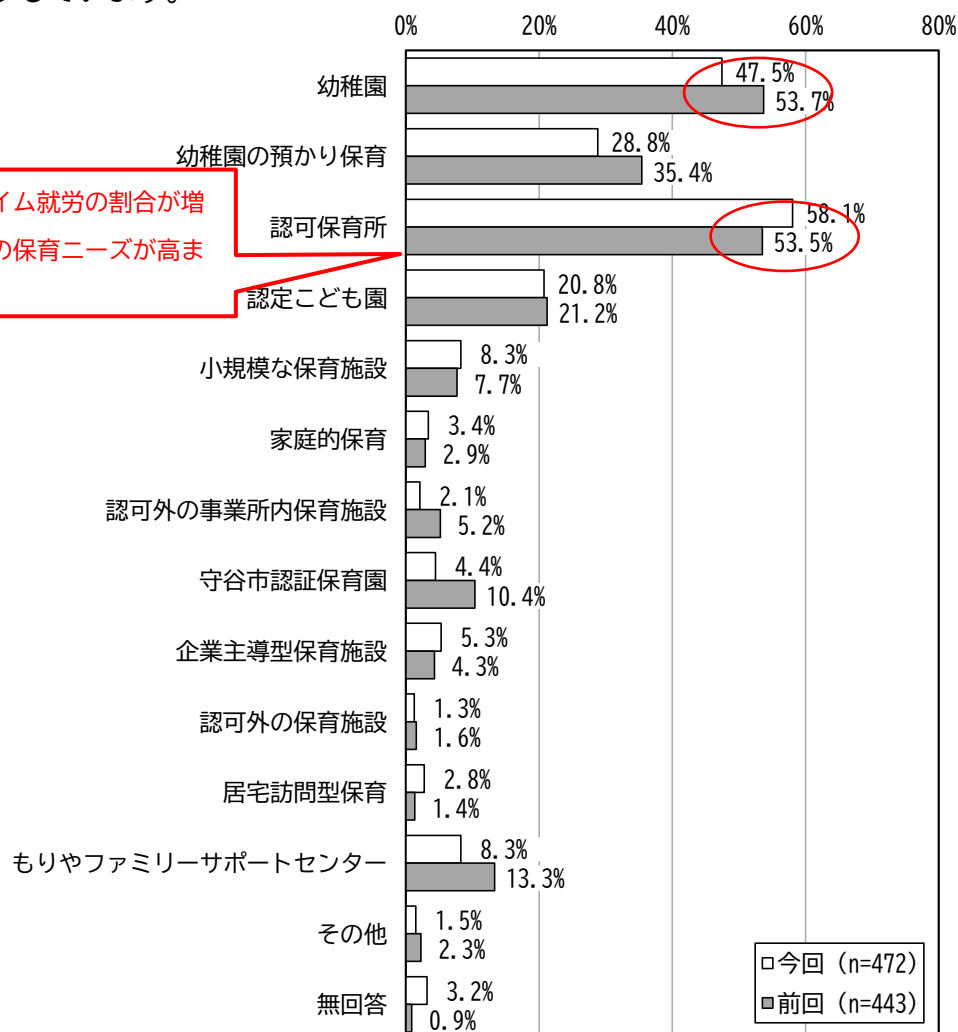
項目	今回		前回	
	度数	比率	度数	比率
幼稚園（通常の就園時間の利用）	109	30.6%	108	36.9%
幼稚園の預かり保育 （通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）	27	7.6%	24	8.2%
認可保育所	197	55.3%	128	43.7%
認定こども園	22	6.2%	24	8.2%
小規模な保育施設	13	3.7%	6	2.0%
家庭的保育	0	0.0%	0	0.0%
認可外の事業所内保育施設（光保育園、しらゆり保育園、つくし保育園、古河ヤクルト株守谷センター託児室）	4	1.1%	7	2.4%
守谷市認証保育園（キッズサポート保育園守谷園）	3	0.8%	19	6.5%
企業主導型保育施設 （花きりんKids、守谷松並青葉のぞみ保育園）	6	1.7%	1	0.3%
認可外の保育施設（認可外の事業所内保育施設、守谷市認証保育園、企業主導型保育施設を除く）	2	0.6%	0	0.0%
居宅訪問型保育	0	0.0%	0	0.0%
もりやファミリーサポートセンター	0	0.0%	4	1.4%
その他	4	1.1%	6	2.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
回答者数	356		293	
非該当	116		-	
合計	472		-	

I. 就学前児童調査

問13 現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんについて、幼稚園や保育園など、平日「定期的に」利用したいと考える事業の番号すべてを選択してください。なお、これらの利用には、一定の利用料がかかります。（あてはまるものすべて選択）

現在、利用している、利用していないにかかわらず、お子さんの平日「定期的に」利用したいと考える事業について、前回との比較では「幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）」で6.6ポイント、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」で6.2ポイント減少しています。

分析・考察：両親のフルタイム就労の割合が増加したことにより、長時間の保育ニーズが高まっている。

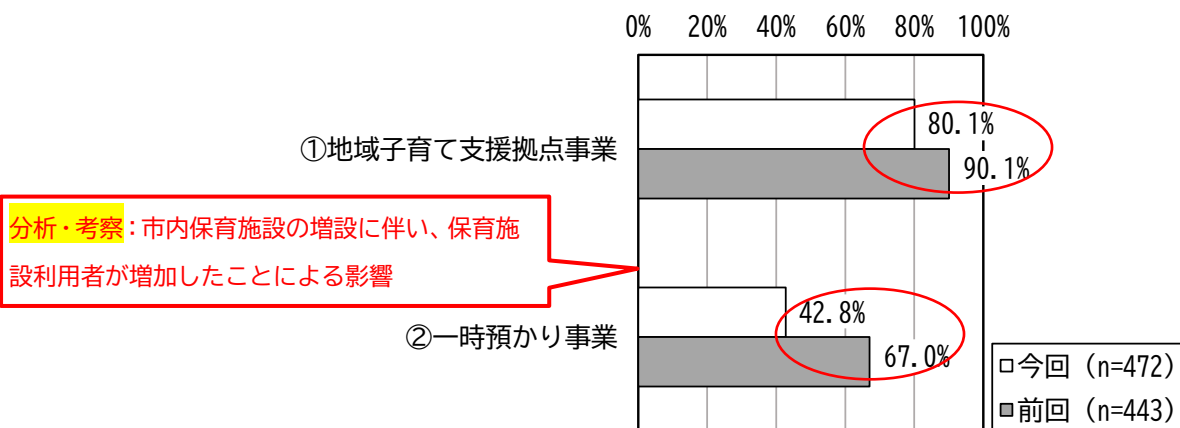


項目	今回		前回	
	度数	比率	度数	比率
幼稚園（通常の就園時間の利用）	224	47.5%	238	53.7%
幼稚園の預かり保育 （通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）	136	28.8%	157	35.4%
認可保育所	274	58.1%	237	53.5%
認定こども園	98	20.8%	94	21.2%
小規模な保育施設	39	8.3%	34	7.7%
家庭的保育	16	3.4%	13	2.9%
認可外の事業所内保育施設 （光保育園、しらゆり保育園、つくし保育園、古河ヤクルト販売㈱ 守谷センター託児室）	10	2.1%	23	5.2%
守谷市認証保育園（キッズサポート保育園守谷園）	21	4.4%	46	10.4%
企業主導型保育施設（花きりんKids、守谷松並青葉のぞみ保育園）	25	5.3%	19	4.3%
認可外の保育施設（上記3項目を除く）	6	1.3%	7	1.6%
居宅訪問型保育	13	2.8%	6	1.4%
もりやファミリーサポートセンター	39	8.3%	59	13.3%
その他	7	1.5%	10	2.3%
無回答	15	3.2%	4	0.9%
回答者数	472		443	

問 14-A 市では、安心して子育てすることができるよう、親子が集まって過ごしたり、子育てについて相談したり、お子さんを一時的に預けたりできる様々な事業を実施しています。下記の事業を知っていますか。

【「はい」を選択した方のみ】

市で行っている事業の認知度について、前回との比較では「①地域子育て支援拠点事業」で 10.0 ポイント、「②一時預かり事業」で 24.2 ポイント減少しています。



項目	今回		前回	
	度数	比率	度数	比率
①地域子育て支援拠点事業	378	80.1%	399	90.1%
②一時預かり事業	202	42.8%	297	67.0%
回答者数	472		443	

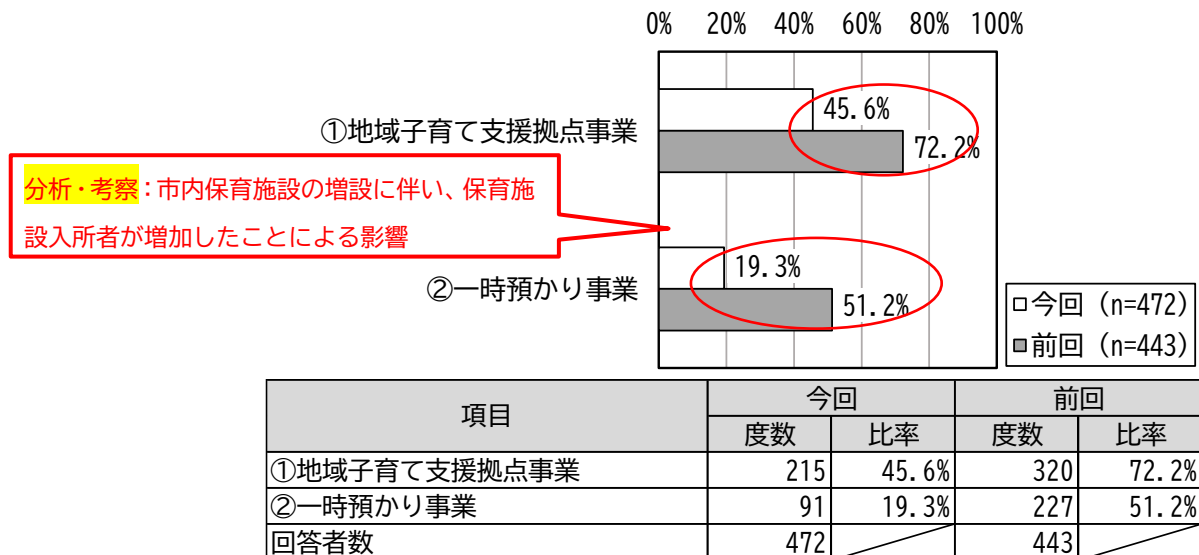
※今回の選択肢で構成している為、「利用者支援事業（子育て世代包括支援センター）」、「乳児家庭全戸訪問事業」、「養育支援訪問事業」、「子育て短期支援事業（子どもショートステイ）」、「延長保育事業」、「病児・病後児保育事業（すこやかルーム）」、「放課後子ども教室」、「放課後児童健全育成事業（児童クラブ）」、「放課後等デイサービス」、「もりやファミリーサポートセンター」、「妊産婦一般健康診査事業」、「保健センターの学級・講座（両親学級、育児学級等）」、「保健センターの情報・相談事業」、「総合教育支援センター」、「家庭児童相談室」、「こども療育教室」、「児童発達支援」、「市発行の子育て支援情報誌（トライアングルブック）」は調査していません。

I. 就学前児童調査

問 14-C 下記の事業を今後利用したいですか。

【「はい」を選択した方のみ】

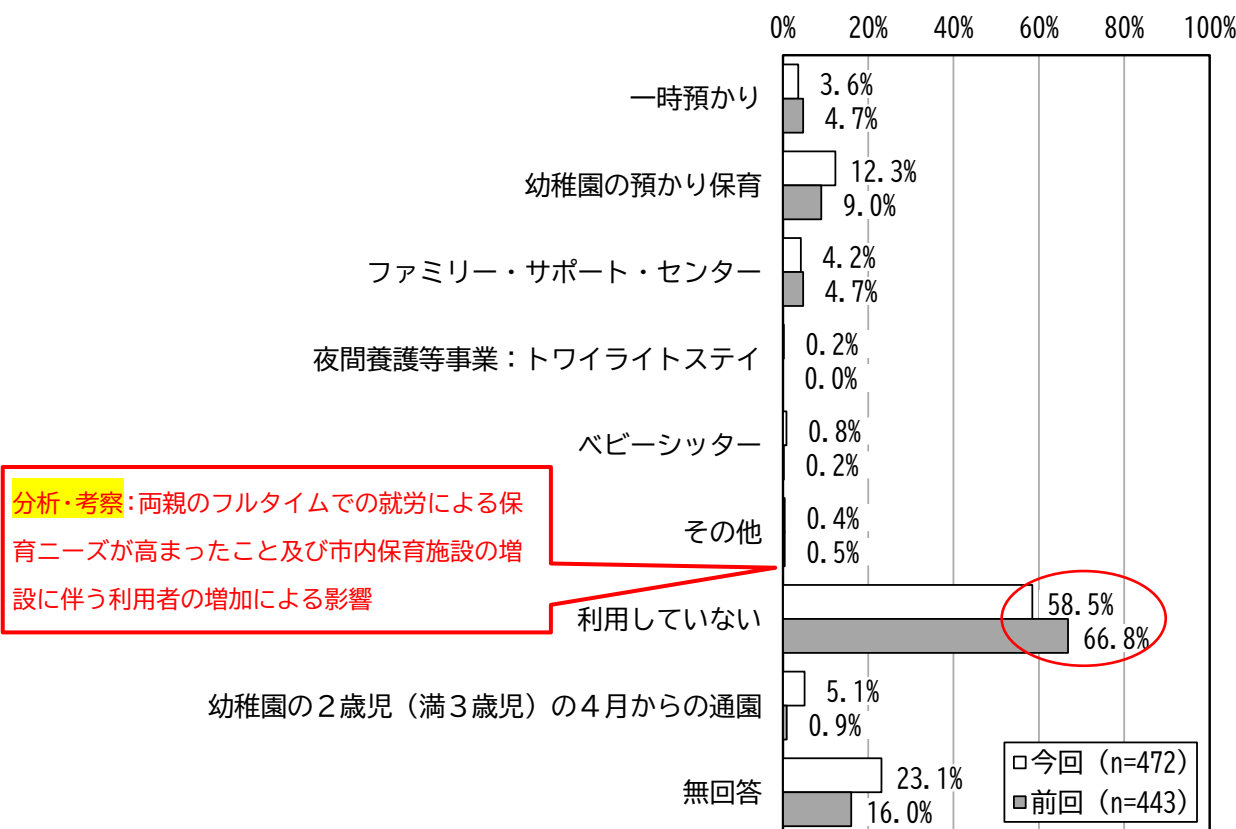
市で行っている事業の利用意向について、前回との比較では「①地域子育て支援拠点事業」で 26.6 ポイント減少、「②一時預かり事業」で 31.9 ポイント減少しています。



※今回の選択肢で構成している為、「利用者支援事業（子育て世代包括支援センター）」、「乳児家庭全戸訪問事業」、「養育支援訪問事業」、「子育て短期支援事業（子どもショートステイ）」、「延長保育事業」、「病児・病後児保育事業（すこやかルーム）」、「放課後子ども教室」、「放課後児童健全育成事業（児童クラブ）」、「放課後等デイサービス」、「もりやファミリーサポートセンター」、「妊産婦一般健康診査事業」、「保健センターの学級・講座（両親学級、育児学級等）」、「保健センターの情報・相談事業」、「総合教育支援センター」、「家庭児童相談室」、「こども療育教室」、「児童発達支援」、「市発行の子育て支援情報誌（トライアングルブック）」は調査していません。

問 19 お子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。（それぞれ1つ選択、数字を入力）

お子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はあるかについて、前回との比較では「利用していない」で 8.3 ポイント減少、「幼稚園の2歳児（満3歳児）の4月からの通園」で 4.2 ポイント増加しています。



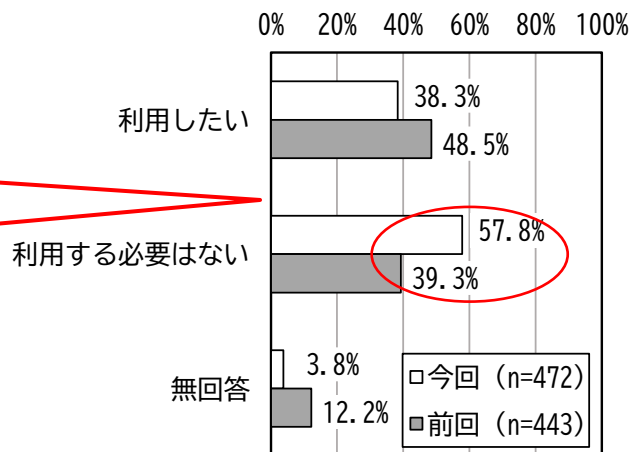
項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
一時預かり （私用など理由を問わずに保育所や幼稚園などで一時的に子どもを保育する事業）	17	3.6%	21	4.7%
幼稚園の預かり保育 （通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）	58	12.3%	40	9.0%
ファミリー・サポート・センター （地域住民が子どもを預かる事業）	20	4.2%	21	4.7%
夜間養護等事業：トワイライトステイ （児童養護施設等で休日・夜間、子どもを保護する事業）	1	0.2%	0	0.0%
ベビーシッター	4	0.8%	1	0.2%
その他	2	0.4%	2	0.5%
利用していない	276	58.5%	296	66.8%
幼稚園の2歳児（満3歳児）の4月からの通園	24	5.1%	4	0.9%
無回答	109	23.1%	71	16.0%
回答者数	472		443	

I. 就学前児童調査

問 20 お子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい事業を利用する必要があると思いますか。なお、事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。（1つ選択）

お子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、利用したいと思うかについて、前回との比較では「利用したい」で 10.2 ポイント減少に対し、「利用する必要はない」で 18.5 ポイント増加しています。

分析・考察：両親のフルタイムでの就労による保育ニーズが高まったこと及び市内保育施設の増設に伴う利用者の増加による影響



項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
利用したい	181	38.3%	215	48.5%
利用する必要はない	273	57.8%	174	39.3%
無回答	18	3.8%	54	12.2%
合計	472	100.0%	443	100.0%

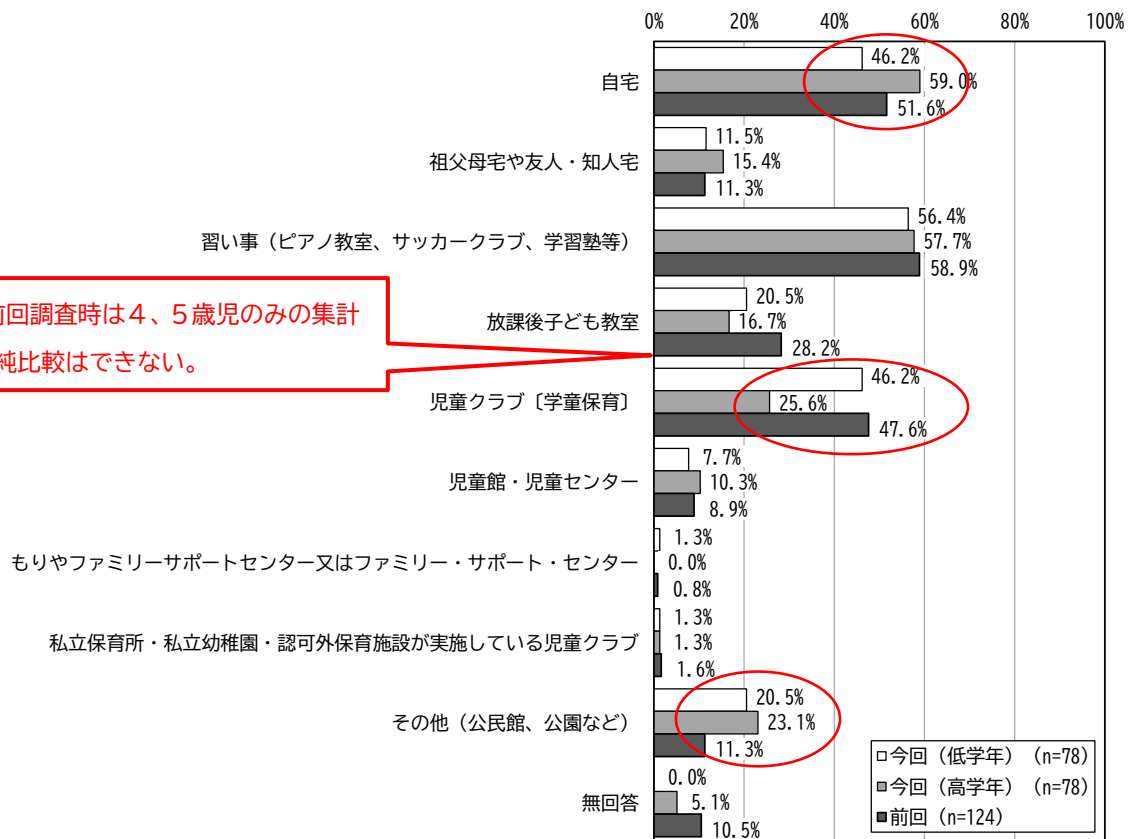
- ※1 「放課後子ども教室」・・・地域の協力を得て、放課後や週末に小学校や公民館で学習・スポーツ・文化芸術活動などを体験する取組です。保護者の就労の有無に関わらず、すべての小学生が利用できます。事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。
- ※2 「児童クラブ」・・・地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、支援員の下、子どもの生活の場を提供するものです事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

令和6年4月に小学校に入学するお子さんのみ回答

問22 お子さんについて、小学校のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。先のことになりますが、現在お持ちのイメージでお答えください。（それぞれ1つずつ選択、数字を入力）合わせて週5日になるように希望日数を入力してください。また、「児童クラブ・放課後子ども教室・児童館・児童センター」の場合には、利用を希望する時間もご入力ください。

お子さんについて、小学校のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいかについて、前回との比較で低学年では「その他（公民館、公園など）」で9.2ポイント増加、高学年では「児童クラブ〔学童保育〕※2」で22.0ポイント減少しています。

分析・考察：前回調査時は4、5歳児のみの集計結果のため単純比較はできない。



項目	今回（低学年）		今回（高学年）		前回	
	度数	構成比	度数	構成比	度数	構成比
自宅	36	46.2%	46	59.0%	64	51.6%
祖父母宅や友人・知人宅	9	11.5%	12	15.4%	14	11.3%
習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾等）	44	56.4%	45	57.7%	73	58.9%
放課後子ども教室※1	16	20.5%	13	16.7%	35	28.2%
児童クラブ〔学童保育〕※2	36	46.2%	20	25.6%	59	47.6%
児童館・児童センター	6	7.7%	8	10.3%	11	8.9%
もりやファミリーサポートセンター又はファミリー・サポート・センター	1	1.3%	0	0.0%	1	0.8%
私立保育所・私立幼稚園・認可外保育施設が実施している児童クラブ	1	1.3%	1	1.3%	2	1.6%
その他（公民館、公園など）	16	20.5%	18	23.1%	14	11.3%
無回答	0	0.0%	4	5.1%	13	10.5%
回答者数	78		78		124	
非該当	394		394		-	
合計	472		472		-	

※前回は4歳、5歳児を対象に集計

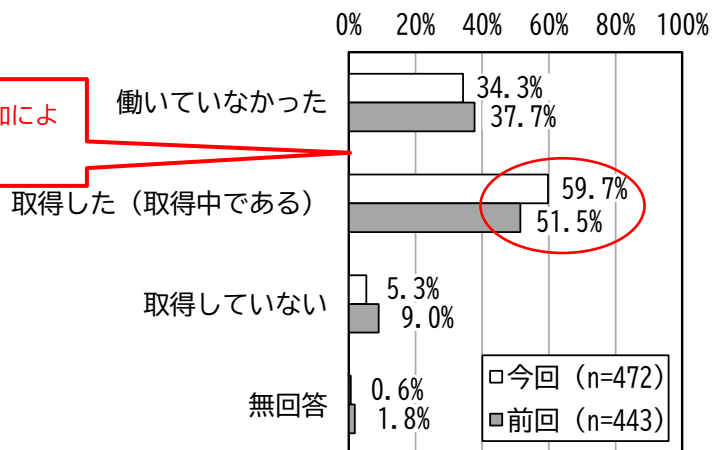
I. 就学前児童調査

問 25 お子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。（それぞれ1つ選択）

【母親】

お子さんが生まれた時、母親が育児休業を取得したかについて、前回との比較では「取得した（取得中である）」で8.2ポイント増加しています。

分析・考察：両親のフルタイムでの就労増加による影響

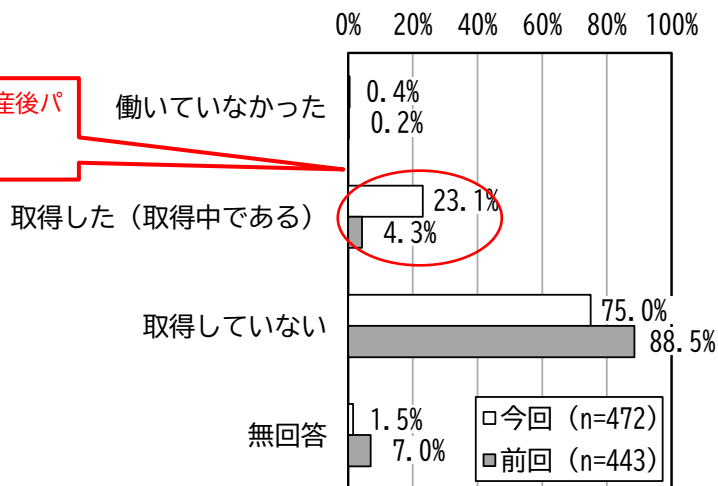


項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
働いていなかった	162	34.3%	167	37.7%
取得した（取得中である）	282	59.7%	228	51.5%
取得していない	25	5.3%	40	9.0%
無回答	3	0.6%	8	1.8%
合計	472	100.0%	443	100.0%

【父親】

お子さんが生まれた時、父親が育児休業を取得したかについて、前回との比較では「取得した（取得中である）」で18.8ポイント増加、「取得していない」で13.5ポイント減少しています。

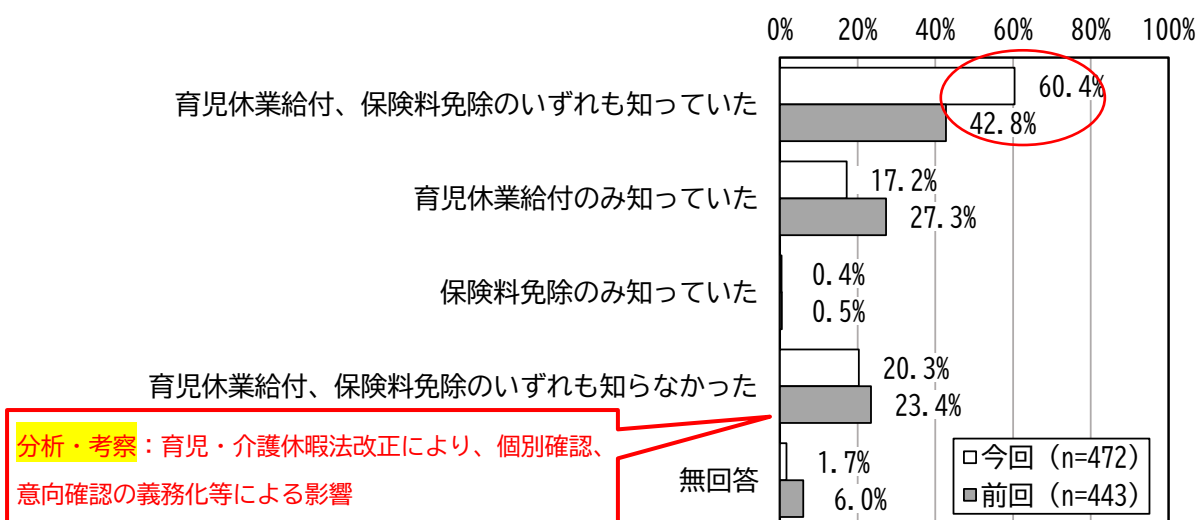
分析・考察：育児・介護休暇法改正による産後パパ育休制度の創設や意識の変化



項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
働いていなかった	2	0.4%	1	0.2%
取得した（取得中である）	109	23.1%	19	4.3%
取得していない	354	75.0%	392	88.5%
無回答	7	1.5%	31	7.0%
合計	472	100.0%	443	100.0%

問 25-1 子どもが原則1歳（保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は2歳）になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等（法定の育児休業および企業が法定を上回る期間を設けた育児休業に準ずる措置）期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがありますが、そのことをご存じでしたか。（1つ選択）

子どもが原則1歳になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまでの育児休業等期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みがあることの認知度について、前回との比較では「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」で17.6ポイント増加、「育児休業給付のみ知っていた」で10.1ポイント減少しています。

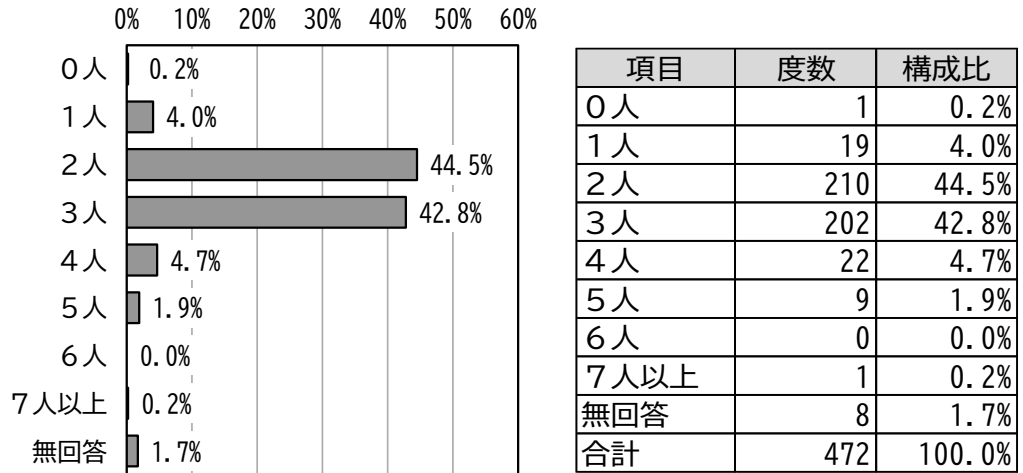


項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた	285	60.4%	177	42.8%
育児休業給付のみ知っていた	81	17.2%	113	27.3%
保険料免除のみ知っていた	2	0.4%	2	0.5%
育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった	96	20.3%	97	23.4%
無回答	8	1.7%	25	6.0%
合計	472	100.0%	414	100.0%

I. 就学前児童調査

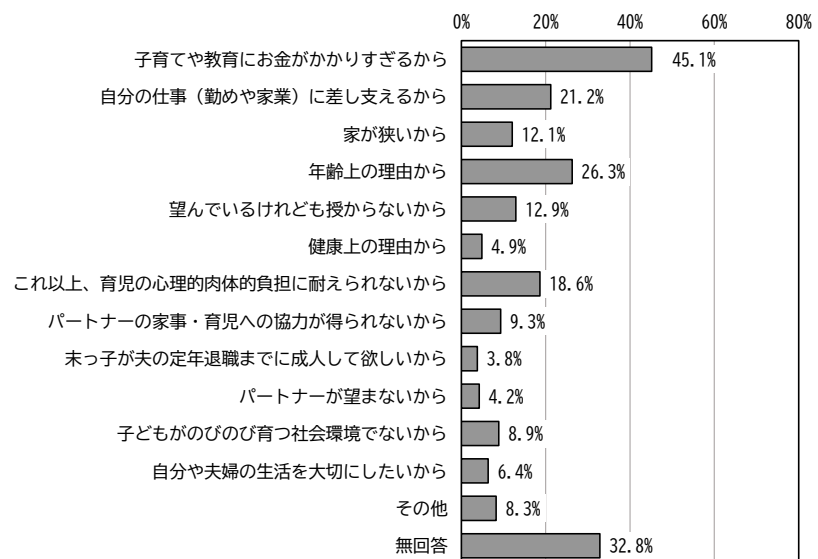
問 26 少子化対策として子育ての施策に役立てる目的でお聞きます。理想の子ども数は何人ですか。
(数字を入力)

理想の子ども数については、「2人」が44.5%と最も多く、次いで、「3人」が42.8%、「4人」が4.7%となっています。



問 26-1 予定子ども数が理想の子ども数を下回る世帯の方に質問です。その理由はなんですか。(あてはまるものすべて選択)

予定子ども数が理想の子ども数を下回る理由については、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が45.1%と最も多く、次いで、「年齢上の理由から」が26.3%、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」が21.2%となっています。

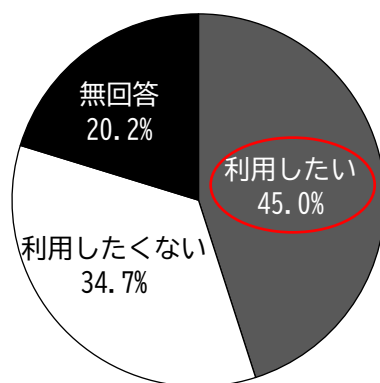


項目	度数	比率
子育てや教育にお金がかかりすぎるから	213	45.1%
自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	100	21.2%
家が狭いから	57	12.1%
年齢上の理由から	124	26.3%
望んでいるけれども授からないから	61	12.9%
健康上の理由から	23	4.9%
これ以上、育児の心理的肉体的負担に耐えられないから	88	18.6%
パートナーの家事・育児への協力が得られないから	44	9.3%
未っ子が夫の定年退職までに成人して欲しいから	18	3.8%
パートナーが望まないから	20	4.2%
子どもがのびのび育つ社会環境でないから	42	8.9%
自分や夫婦の生活を大切にしたいから	30	6.4%
その他	39	8.3%
無回答	155	32.8%
回答者数	472	

問2で「0歳」から「2歳」を選択した方のみ回答

問 27 国が検討している0～2歳児を対象に保護者が就労していなくても定期的に預かり保育を提供する「子ども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、週に何日くらい利用したいと思いますか。なお、サービスの利用にあたっては、一定の利用者負担が発生します。（1つ選択）

国が検討している0～2歳児を対象に保護者が就労していなくても定期的に預かり保育を提供する「子ども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、利用したいかについては、「利用したい」が45.0%に対し、「利用したくない」が34.7%となっています。



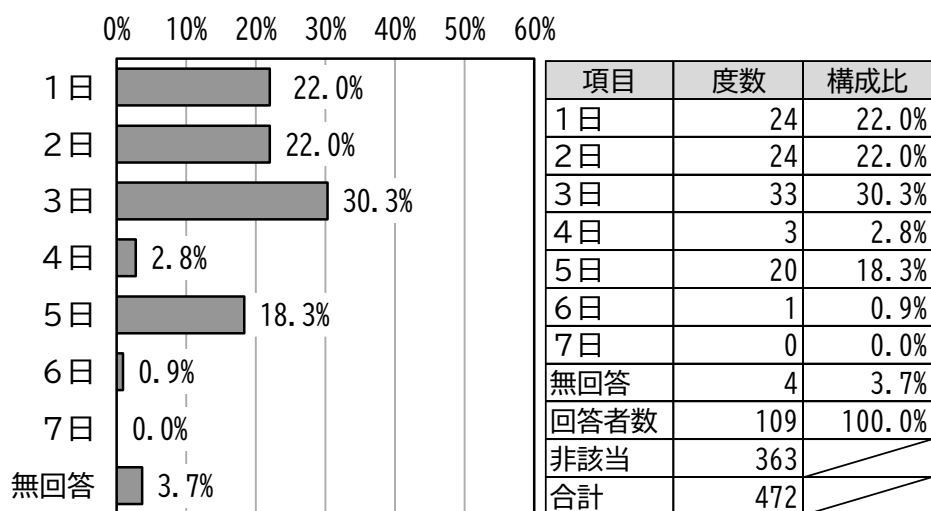
項目	度数	構成比
利用したい	109	45.0%
利用したくない	84	34.7%
無回答	49	20.2%
回答者数	242	100.0%
非該当	230	
合計	472	

問 27 で「利用したい」を選択した方のみ回答

問 27-1 利用したい日数、時間数及び時間帯を入力してください。

【希望利用日数】（週当たり）

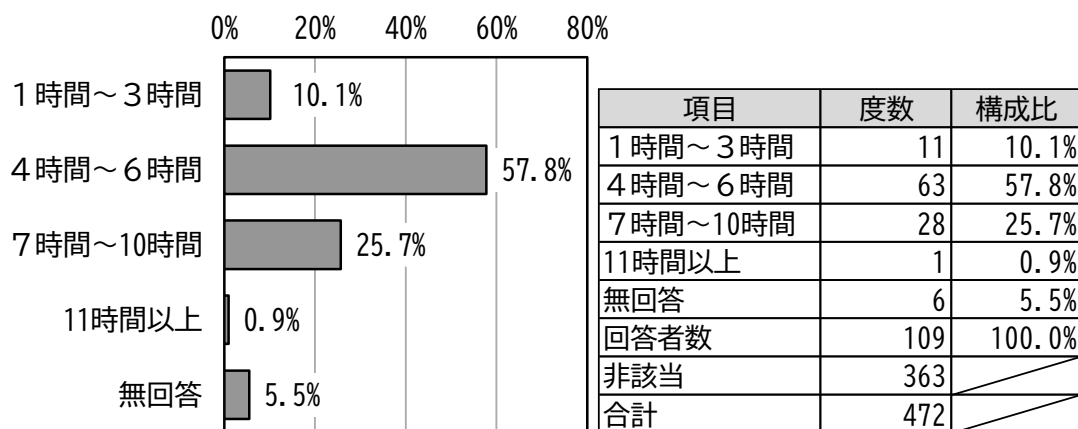
「子ども誰でも通園制度（仮称）」の希望利用日数については、「3日」が30.3%と最も多く、次いで、「1日」、「2日」がともに22.0%となっています。



I. 就学前児童調査

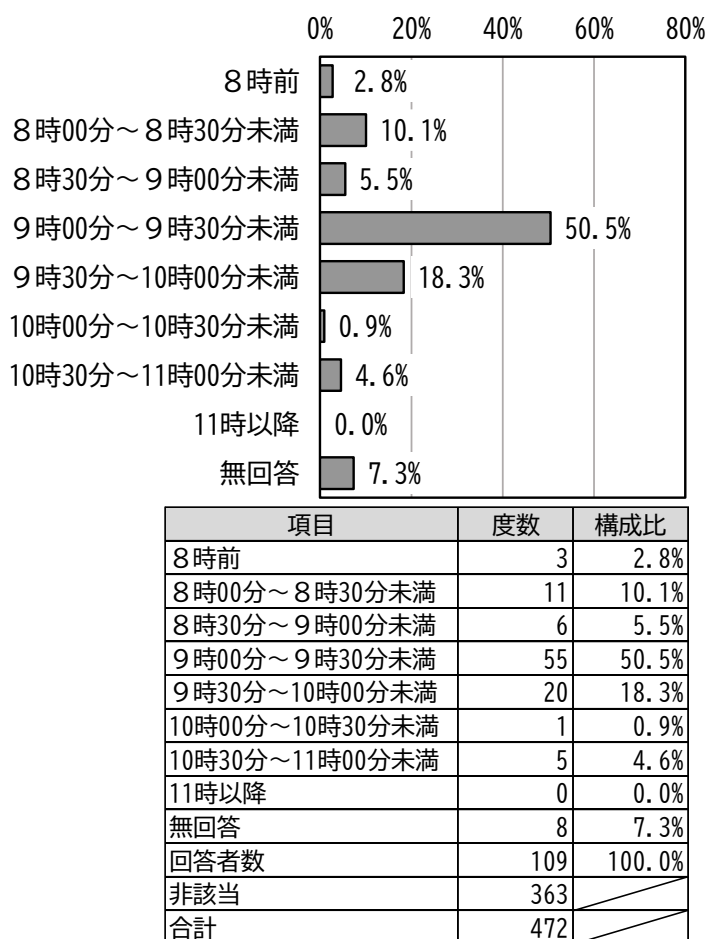
【希望利用時間】（1回あたり）

「子ども誰でも通園制度（仮称）」の1回あたりの希望利用時間については、「4時間～6時間」が57.8%と最も多く、次いで、「7時間～10時間」が25.7%、「1時間～3時間」が10.1%となっています。



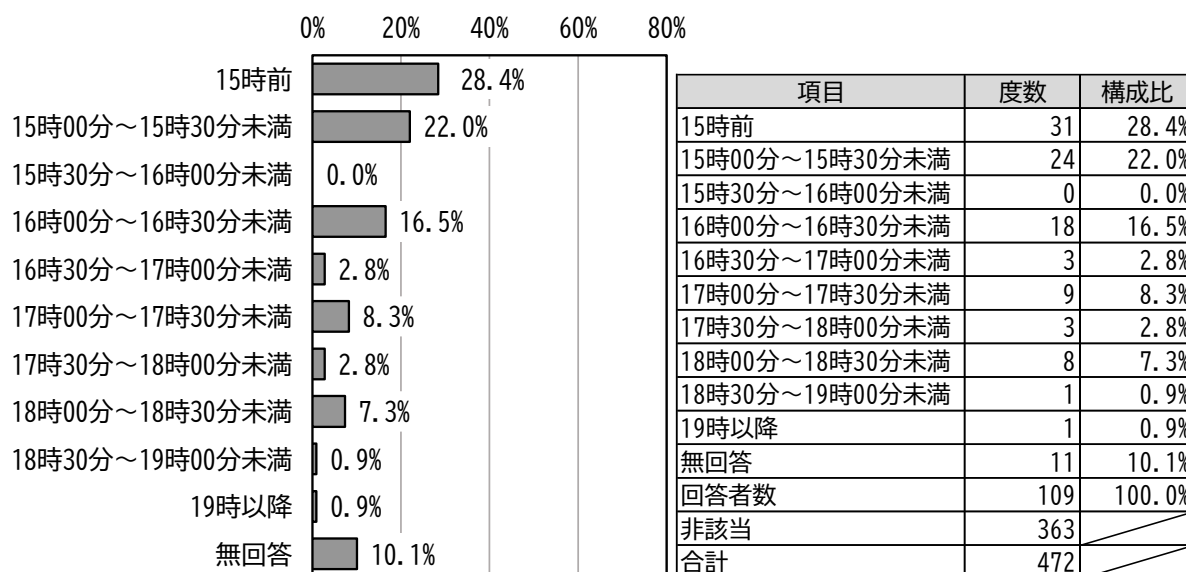
【希望利用開始時間】

「子ども誰でも通園制度（仮称）」の希望利用開始時間については、「9時00分～9時30分未満」が50.5%と最も多く、次いで、「9時30分～10時00分未満」が18.3%、「8時00分～8時30分未満」が10.1%となっています。



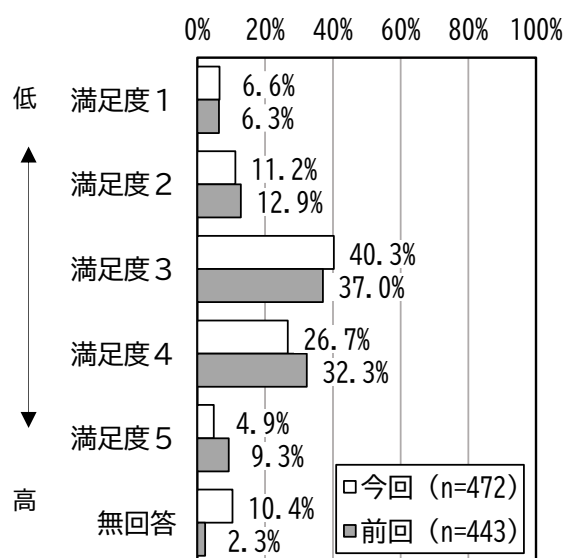
【希望利用終了時間】

「子ども誰でも通園制度（仮称）」の希望利用終了時間については、「15 時前」が 28.4%と最も多く、次いで、「15 時 00 分～15 時 30 分未満」が 22.0%、「16 時 00 分～16 時 30 分未満」が 16.5%となっています。



問 28 お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度について当てはまる番号を選択し、その理由をご入力ください。（1つ選択）

お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度について、前回との比較では「満足度4」で5.6ポイント、「満足度5」で4.4ポイント減少しています。

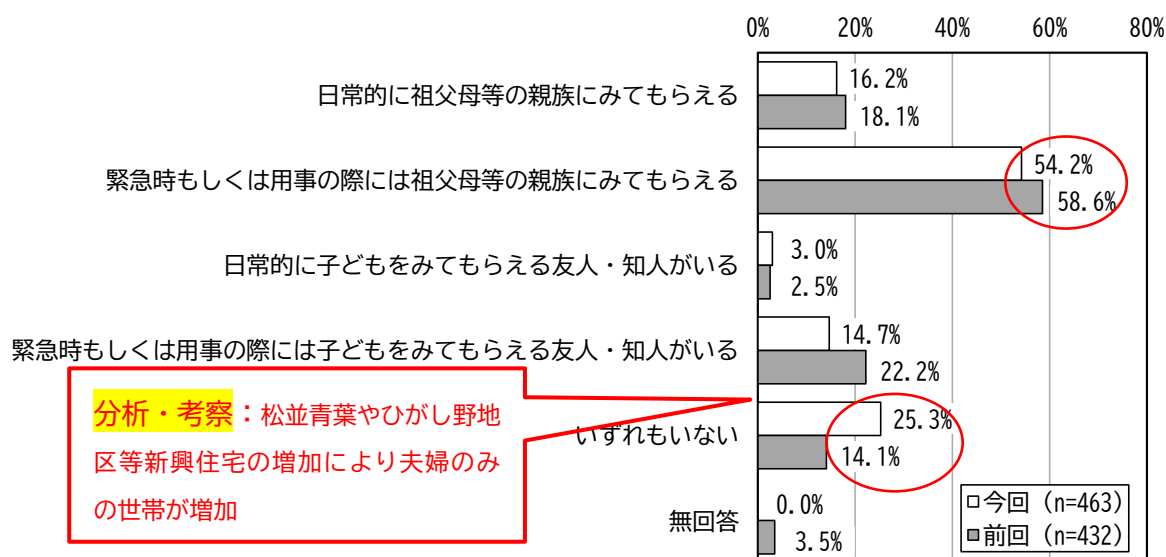


項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
満足度 1	31	6.6%	28	6.3%
満足度 2	53	11.2%	57	12.9%
満足度 3	190	40.3%	164	37.0%
満足度 4	126	26.7%	143	32.3%
満足度 5	23	4.9%	41	9.3%
無回答	49	10.4%	10	2.3%
合計	472	100.0%	443	100.0%

Ⅲ. 前回調査との乖離の大きかった設問等 (就学児童調査)

問7 日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。(あてはまるものをすべて選択)

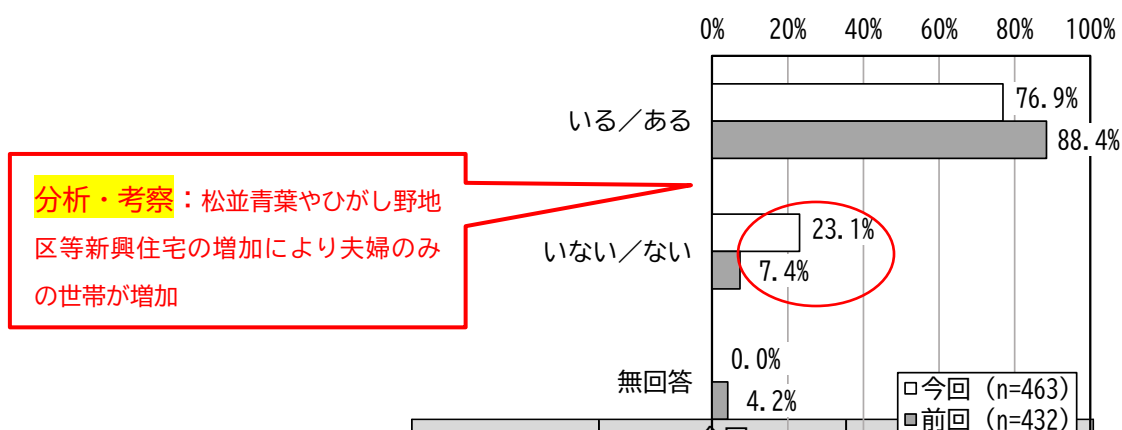
日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいるかについて、前回との比較では「いずれもない」で11.2ポイント増加、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」で7.5ポイント減少しています。



項目	今回		前回	
	度数	比率	度数	比率
日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	75	16.2%	78	18.1%
緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	251	54.2%	253	58.6%
日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	14	3.0%	11	2.5%
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	68	14.7%	96	22.2%
いずれもない	117	25.3%	61	14.1%
無回答	0	0.0%	15	3.5%
回答者数	463		432	

問8 お子さんの子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。(1つ選択)

お子さんの子育て(教育を含む)をする上で、気軽に相談できる人、相談できる場所について、前回との比較では「いない／ない」で15.7ポイント増加しています。

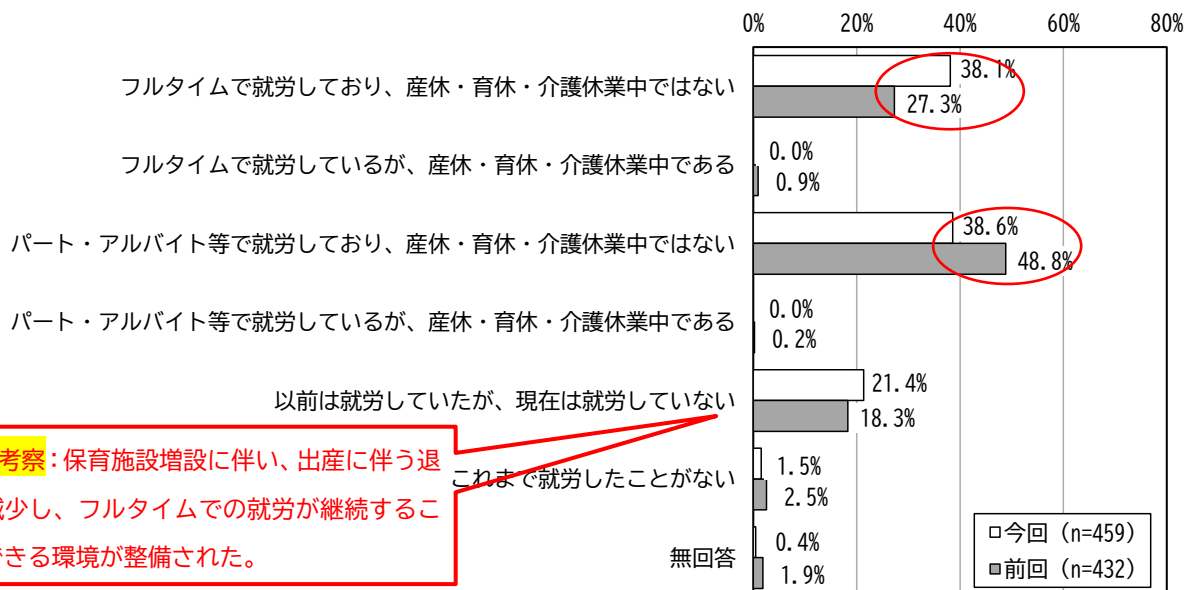


項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
いる／ある	356	76.9%	382	88.4%
いない／ない	107	23.1%	32	7.4%
無回答	0	0.0%	18	4.2%
合計	463	100.0%	432	100.0%

Ⅲ. 妊娠期調査

問 10 (1) お子さんの母親【父子家庭の場合は回答不要です】の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。（1つ選択）

母親の現在の就労状況について、前回との比較では「フルタイム※で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」で 10.8 ポイント増加、「パート・アルバイト等※で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」で 10.2 ポイント減少しています。



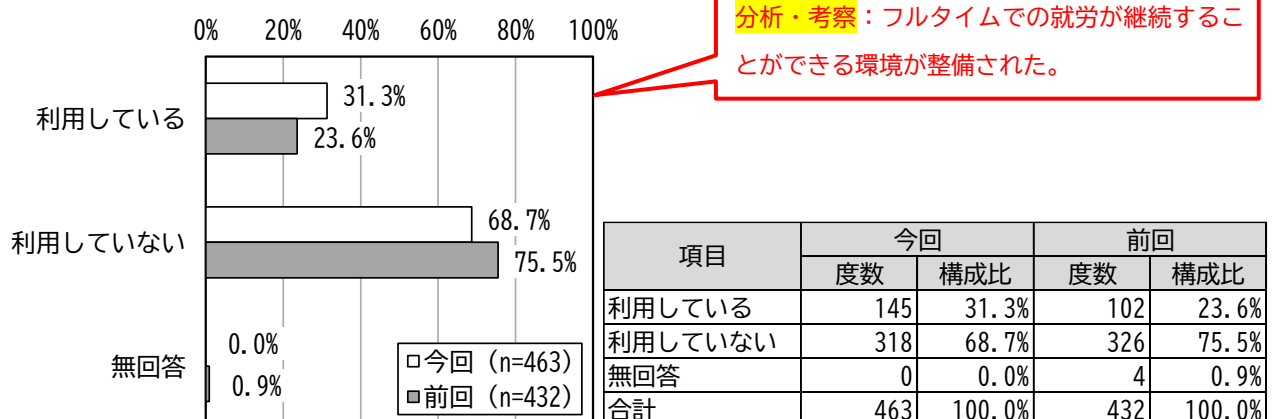
分析・考察：保育施設増設に伴い、出産に伴う退職が減少し、フルタイムでの就労が継続することができるよう環境が整備された。

項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
フルタイム※で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	175	38.1%	118	27.3%
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	0	0.0%	4	0.9%
パート・アルバイト等※で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	177	38.6%	211	48.8%
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	0	0.0%	1	0.2%
以前は就労していたが、現在は就労していない	98	21.4%	79	18.3%
これまで就労したことがない	7	1.5%	11	2.5%
無回答	2	0.4%	8	1.9%
回答者数	459	100.0%	432	100.0%
非該当	4		-	
合計	463		432	

※フルタイム：週5日・1日8時間程度の就労／パート・アルバイト等：フルタイム以外の就労

問 11 お子さんは現在、放課後児童クラブを利用していますか。（1つ選択）

お子さんは現在、放課後児童クラブを利用しているかについて、前回との比較では「利用している」で 7.7 ポイント増加に対し、「利用していない」で 6.8 ポイント減少しています。



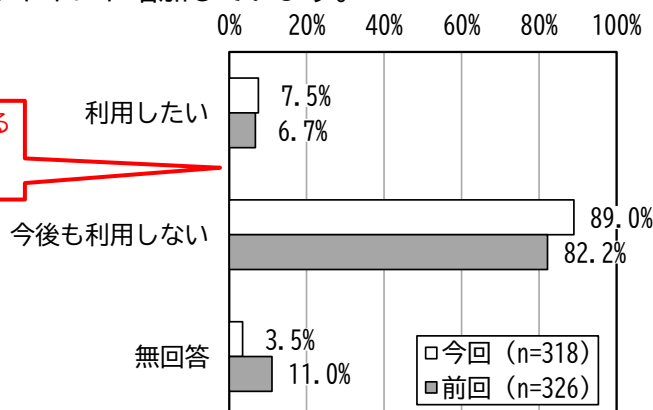
分析・考察：フルタイムでの就労が継続することができるよう環境が整備された。

問 11 で「利用していない」を選択した方のみ回答

問 11-4 お子さんについて、今後、児童クラブを利用したいとお考えですか。(1つ選択)

今後、児童クラブを利用したいかについて、前回との比較では「利用したい」で 0.8 ポイント増加に対し、「今後も利用しない」で 6.8 ポイント増加しています。

分析・考察：新型コロナウイルス感染症による
利用控えから必要度が低下している可能性



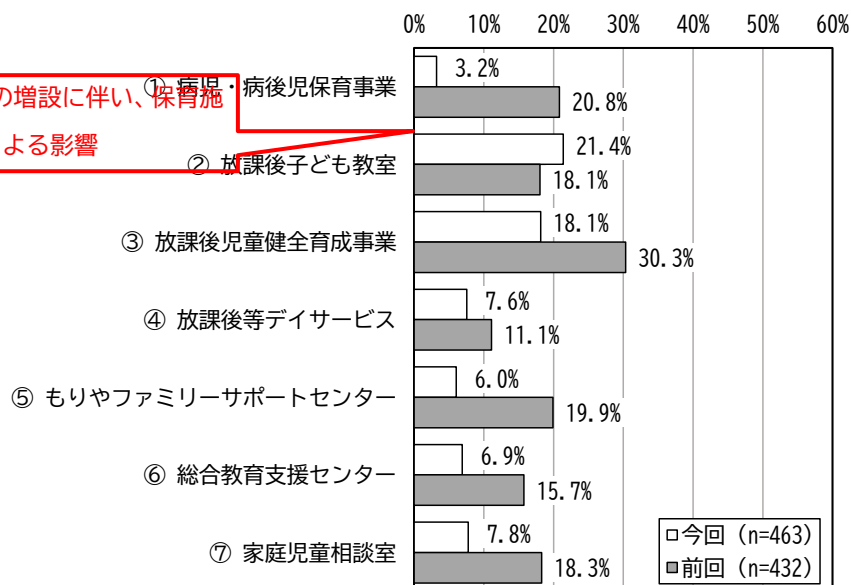
項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
利用したい	24	7.5%	22	6.7%
今後も利用しない	283	89.0%	268	82.2%
無回答	11	3.5%	36	11.0%
回答者数	318	100.0%	326	100.0%
非該当	145		-	
合計	463		-	

問 13-C 下記の事業のうち、今後利用したいものをすべて選択してください。

【「はい」を選択した方のみ】

市で行っている事業の利用意向について、前回との比較では「①病児・病後児保育事業」で 17.6 ポイント、「⑤もりやファミリーサポートセンター」で 13.9 ポイント減少しています。

分析・考察：市内保育施設の増設に伴い、~~病児・病後児~~保育施設
設入所者が増加したことによる影響

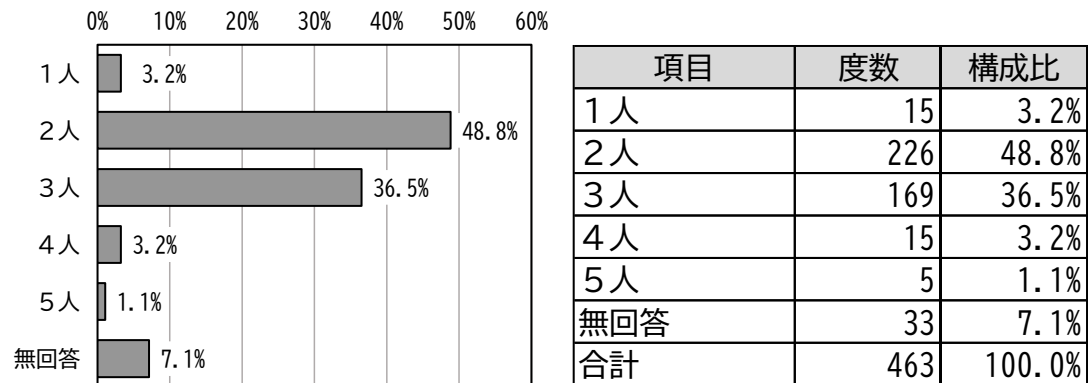


項目	今回		前回	
	度数	比率	度数	比率
① 病児・病後児保育事業（すこやかルーム）	15	3.2%	90	20.8%
② 放課後子ども教室	99	21.4%	78	18.1%
③ 放課後児童健全育成事業（児童クラブ）	84	18.1%	131	30.3%
④ 放課後等デイサービス	35	7.6%	48	11.1%
⑤ もりやファミリーサポートセンター	28	6.0%	86	19.9%
⑥ 総合教育支援センター	32	6.9%	68	15.7%
⑦ 家庭児童相談室	36	7.8%	79	18.3%
回答者数	463		432	

Ⅲ. 妊娠期調査

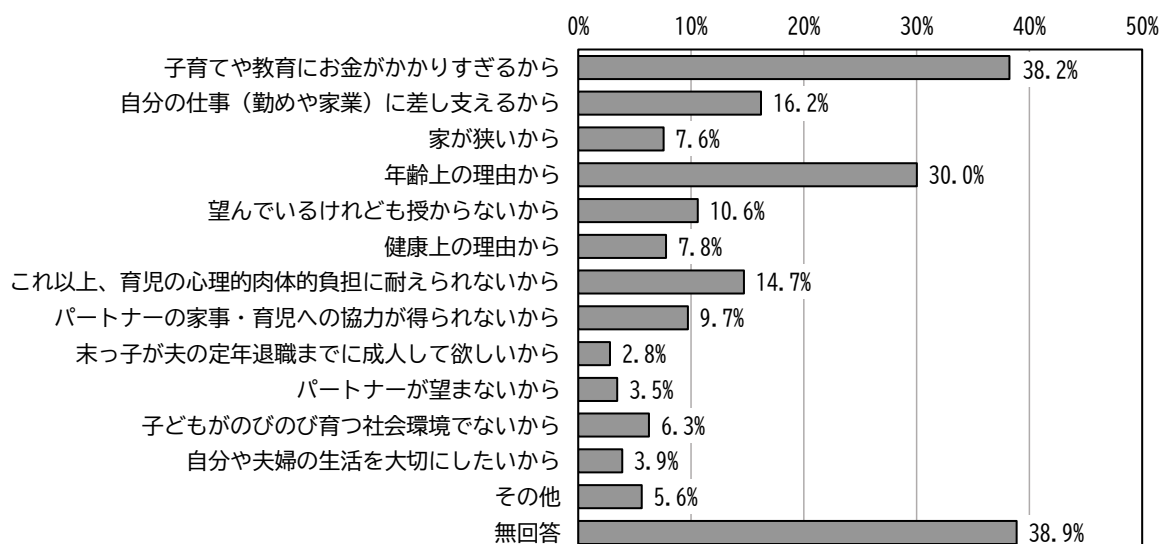
問 19 少子化対策として子育ての施策に役立てる目的でお聞きします。理想の子ども数は何人ですか。

理想の子ども数については、「2人」が 48.8%と最も多く、次いで「3人」が 36.5%、「1人」、「4人」がともに 3.2%となっています。



問 19-1 予定子ども数が理想子ども数を下回る世帯の方に質問です。その理由は何ですか。(あてはまるものすべて選択)

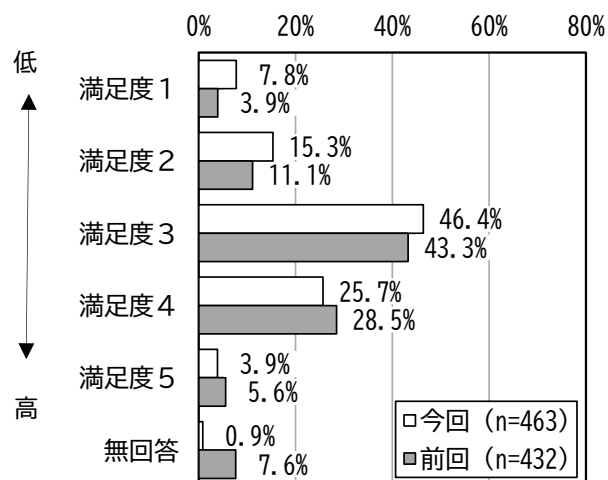
予定子ども数が理想子ども数を下回る 理由については、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 38.2%と最も多く、次いで「年齢上の理由から」が 30.0%、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」が 16.2%となっています。



項目	度数	比率
子育てや教育にお金がかかりすぎるから	177	38.2%
自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	75	16.2%
家が狭いから	35	7.6%
年齢上の理由から	139	30.0%
望んでいるけれども授からないから	49	10.6%
健康上の理由から	36	7.8%
これ以上、育児の心理的肉体的負担に耐えられないから	68	14.7%
パートナーの家事・育児への協力が得られないから	45	9.7%
未っ子が夫の定年退職までに成人して欲しいから	13	2.8%
パートナーが望まないから	16	3.5%
子どもがのびのび育つ社会環境でないから	29	6.3%
自分や夫婦の生活を大切にしたいから	18	3.9%
その他	26	5.6%
無回答	180	38.9%
回答者数	463	

問 20 お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度を選択してください。(1つ選択)

お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度について、前回との比較では「満足度2」で4.2ポイント、「満足度1」で3.9ポイント増加しています。



項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
満足度1	36	7.8%	17	3.9%
満足度2	71	15.3%	48	11.1%
満足度3	215	46.4%	187	43.3%
満足度4	119	25.7%	123	28.5%
満足度5	18	3.9%	24	5.6%
無回答	4	0.9%	33	7.6%
合計	463	100.0%	432	100.0%

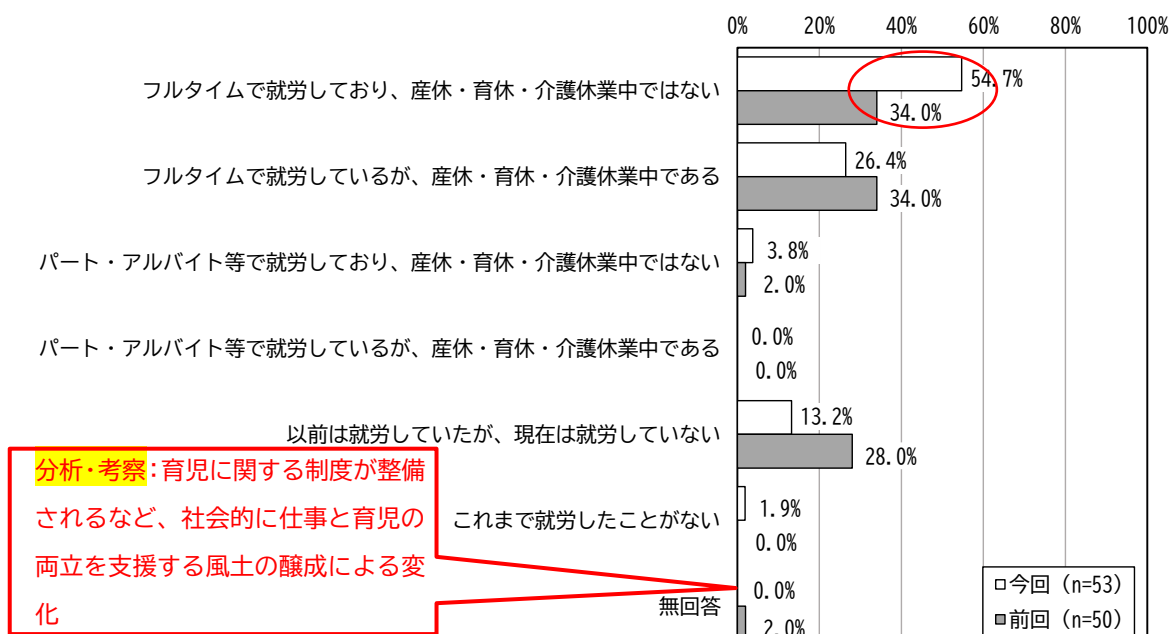
Ⅲ. 妊娠期調査

IV. 前回調査との乖離の大きかった設問等 (妊娠期調査)

Ⅲ. 妊娠期調査

問7（１） あなた（母親）の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をお伺いします。当てはまる番号を1つ選択してください。

母親の現在の就労状況について、前回との比較では「フルタイム※¹で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」で20.7ポイント増加、「以前は就労していたが、現在は就労していない」で14.8ポイント減少しています。



項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
フルタイム※ ¹ で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	29	54.7%	17	34.0%
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	14	26.4%	17	34.0%
パート・アルバイト等※ ² で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	2	3.8%	1	2.0%
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	0	0.0%	0	0.0%
以前は就労していたが、現在は就労していない	7	13.2%	14	28.0%
これまで就労したことがない	1	1.9%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	1	2.0%
合計	53	100.0%	50	100.0%

※1 フルタイム：1週5日程度・1日8時間程度の就労

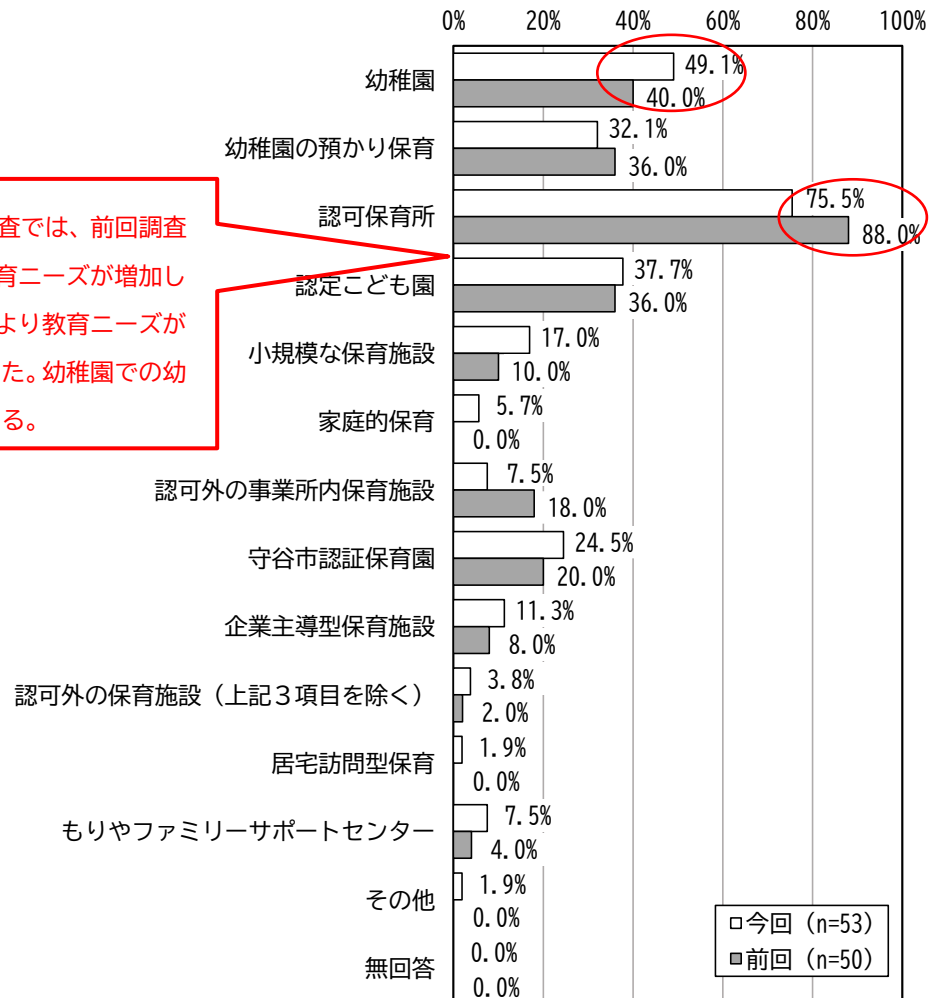
※2 パート・アルバイト等：フルタイム以外の就労

Ⅲ. 妊娠期調査

問8 これから生まれるお子さんについて、平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。当てはまる番号をすべて選択してください。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。認可保育所の場合、世帯収入に応じた利用料が設定されています。

定期的に利用したいと考える事業について、前回との比較では「認可保育所」で 12.5 ポイント減少し、「幼稚園」で 9.1 ポイント増加しています。

分析・考察：就学前児童の調査では、前回調査より教育ニーズが減少し、保育ニーズが増加したが、妊娠期では、前回調査より教育ニーズが増加して保育ニーズが減少した。幼稚園での幼児教育への関心の高さが伺える。

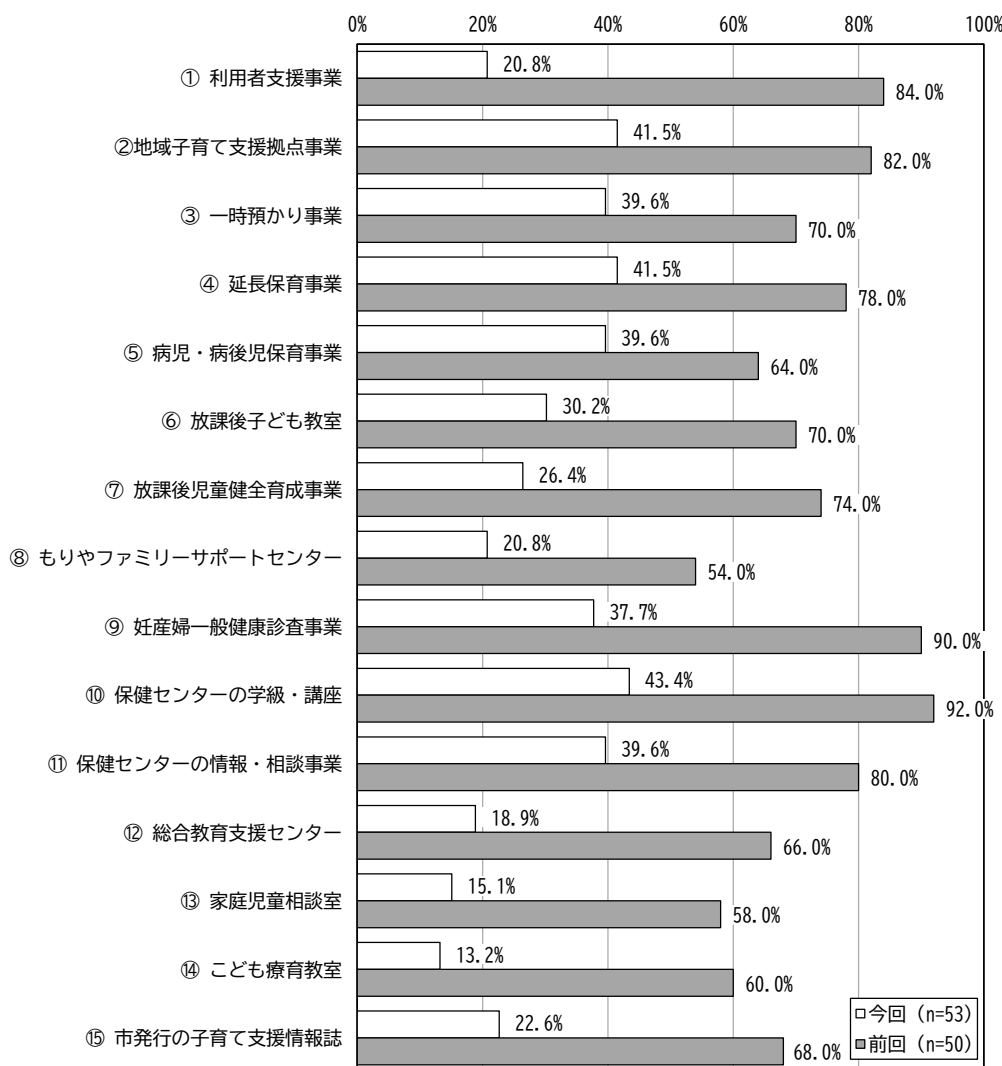


項目	今回		前回	
	度数	比率	度数	比率
幼稚園（通常の就園時間の利用）	26	49.1%	20	40.0%
幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）	17	32.1%	18	36.0%
認可保育所	40	75.5%	44	88.0%
認定こども園	20	37.7%	18	36.0%
小規模な保育施設	9	17.0%	5	10.0%
家庭的保育	3	5.7%	0	0.0%
認可外の事業所内保育施設（光保育園、しらゆり保育園、つくし保育園、古河ヤクルト販売㈱守谷センター託児室）	4	7.5%	9	18.0%
守谷市認証保育園（キッズサポート保育園守谷園）	13	24.5%	10	20.0%
企業主導型保育施設（花きりんkids、守谷松並青葉のぞみ保育園）	6	11.3%	4	8.0%
認可外の保育施設（上記3項目を除く）	2	3.8%	1	2.0%
居宅訪問型保育	1	1.9%	0	0.0%
もりやファミリーサポートセンター	4	7.5%	2	4.0%
その他	1	1.9%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%
回答者数	53		50	

問 10-C 下記の事業を今後利用したいですか。今後利用したい事業をすべて選択してください。

【「はい」を選択した方のみ】

市で行っている事業の利用意向について、前回との比較では「①利用者支援事業（ハローベビー等）」で 63.2 ポイント、「⑨妊産婦一般健康診査事業」で 52.3 ポイント減少しています。



項目	今回		前回	
	度数	比率	度数	比率
① 利用者支援事業（ハローベビー等）	11	20.8%	42	84.0%
② 地域子育て支援拠点事業（地域子育て支援センター、まつやま保育園・ねっこ守谷、そらまい保育園・soramaiKIDS、守谷どろんこ保育園・ちきんえっぐ）南北児童センター、守谷駅前親子ふれあいルーム、遊育（あそいく）施設あそびの森もりっ子）	22	41.5%	41	82.0%
③ 一時預かり事業	21	39.6%	35	70.0%
④ 延長保育事業	22	41.5%	39	78.0%
⑤ 病児・病後児保育事業（すこやかルーム）	21	39.6%	32	64.0%
⑥ 放課後子ども教室	16	30.2%	35	70.0%
⑦ 放課後児童健全育成事業（児童クラブ）	14	26.4%	37	74.0%
⑧ もりやファミリーサポートセンター	11	20.8%	27	54.0%
⑨ 妊産婦一般健康診査事業	20	37.7%	45	90.0%
⑩ 保健センターの学級・講座（両親学級、子育て教室等）	23	43.4%	46	92.0%
⑪ 保健センターの情報・相談事業	21	39.6%	40	80.0%
⑫ 総合教育支援センター	10	18.9%	33	66.0%
⑬ 家庭児童相談室	8	15.1%	29	58.0%
⑭ こども療育教室	7	13.2%	30	60.0%
⑮ 市発行の子育て支援情報誌（守谷で子育て総合Guide Book）	12	22.6%	34	68.0%
回答者数	53		50	

※今回の選択肢で構成している為、「乳児家庭全戸訪問事業」、「養育支援訪問事業」、「子育て短期支援事業（子どもショートステイ）」は調査していません。

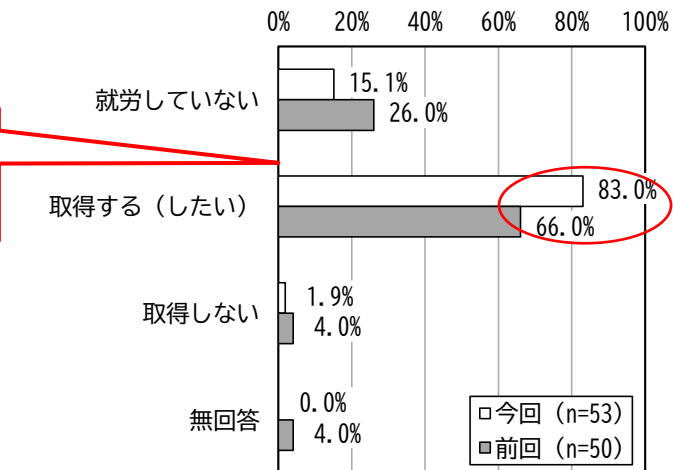
Ⅲ. 妊娠期調査

問 12 出産後、あなた（母親）や配偶者（父親）は育児休業を取得しますか。あなた（母親）と配偶者（父親）のそれぞれについて、当てはまる番号を1つ選択してください。取得する（したい）場合、お子さんが何歳何か月になるまで取得したいか選択してください。また、取得しない方はその理由を選択してください。

【母親】

母親が、出産後、育児休業を取得するかについて、前回との比較では「取得する（したい）」で 17.0 ポイント増加、「就労していない」で 10.9 ポイント減少しています。

分析・考察：両親のフルタイムでの就労増加による影響

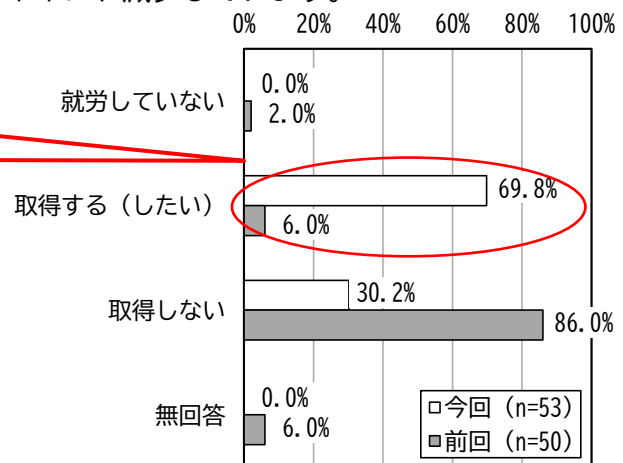


項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
就労していない	8	15.1%	13	26.0%
取得する（したい）	44	83.0%	33	66.0%
取得しない	1	1.9%	2	4.0%
無回答	0	0.0%	2	4.0%
合計	53	100.0%	50	100.0%

【父親】

父親が、出産後、育児休業を取得するかについて、前回との比較では「取得する（したい）」で 63.8 ポイント増加、「取得しない」で 55.8 ポイント減少しています。

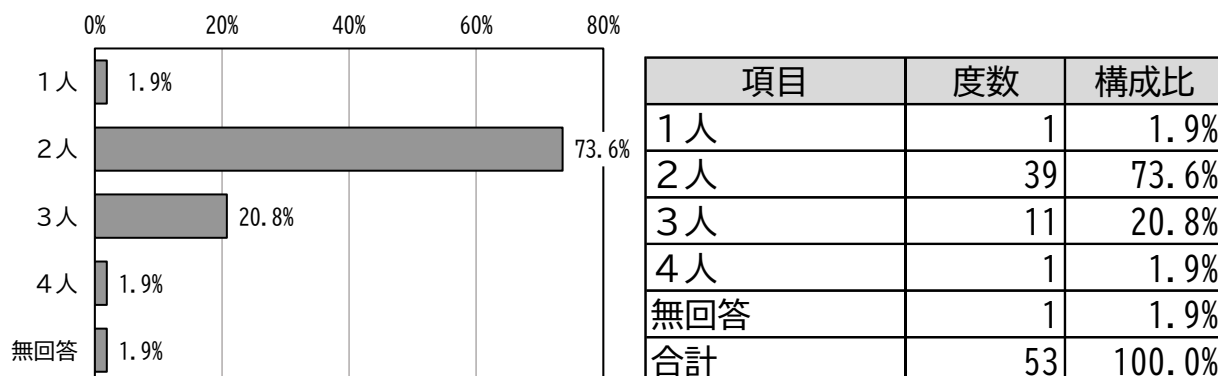
分析・考察：育児・介護休暇法改正による産後パパ育児制度の創設や意識の変化



項目	今回		前回	
	度数	構成比	度数	構成比
就労していない	0	0.0%	1	2.0%
取得する（したい）	37	69.8%	3	6.0%
取得しない	16	30.2%	43	86.0%
無回答	0	0.0%	3	6.0%
合計	53	100.0%	50	100.0%

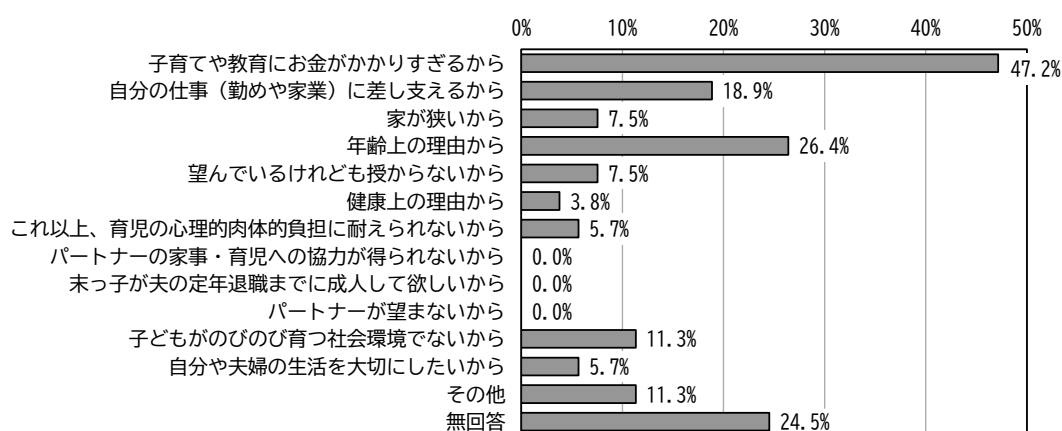
問 13 少子化対策として子育ての施策に役立てる目的でお聞きます。理想の子ども数は何人ですか。（数字を入力）

理想の子ども数については、「2人」が 73.6%と最も多く、次いで「3人」が 20.8%、「1人」、「4人」がともに 1.9%となっています。



問 13-1 予定子ども数が理想子ども数を下回る世帯の方に質問です。その理由は何ですか。（当てはまる番号をすべて選択）

予定の子ども数が理想の子ども数を下回る理由については、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 47.2%と最も多く、次いで「年齢上の理由から」が 26.4%、「自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」が 18.9%となっています。

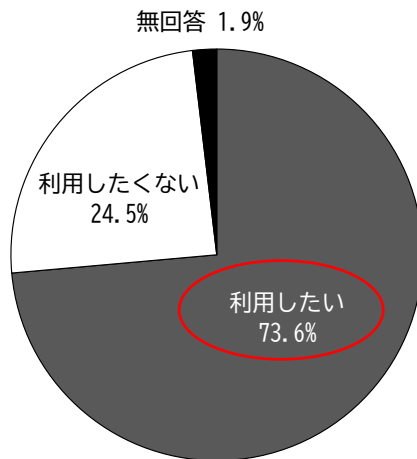


項目	度数	比率
子育てや教育にお金がかかりすぎるから	25	47.2%
自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	10	18.9%
家が狭いから	4	7.5%
年齢上の理由から	14	26.4%
望んでいるけれども授からないから	4	7.5%
健康上の理由から	2	3.8%
これ以上、育児の心理的肉体的負担に耐えられないから	3	5.7%
パートナーの家事・育児への協力が得られないから	0	0.0%
未っ子が夫の定年退職までに成人して欲しいから	0	0.0%
パートナーが望まないから	0	0.0%
子どもがのびのび育つ社会環境でないから	6	11.3%
自分や夫婦の生活を大切にしたいから	3	5.7%
その他	6	11.3%
無回答	13	24.5%
回答者数	53	

Ⅲ. 妊娠期調査

問 14 国が検討している0～2歳児を対象に保護者が就労していなくても定期的に預かり保育を提供する「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、週に何日くらい利用したいと思いますか。なお、サービスの利用にあたっては、一定の利用者負担が発生します。（1つ選択）

「こども誰でも通園制度（仮称）」が創設された場合、利用したいかについては、「利用したい」が73.6%に対し、「利用したくない」が24.5%となっています。



項目	度数	構成比
利用したい	39	73.6%
利用したくない	13	24.5%
無回答	1	1.9%
合計	53	100.0%

問 14 で「利用したい」を選択した方のみ回答

問 14-1 利用したい日数、時間数及び時間帯を入力してください。

【希望利用日数・希望利用時間】

1週当たりの希望利用日数については、「2回」が13件と最も多く、次いで「3回」が9件、「1回」が8件となっています。1回当たりの希望利用時間については、「6時間」が12件と最も多く、次いで「8時間以上」が10件、「5時間」が9件となっています。

項目	度数	構成比
1回	8	20.5%
2回	13	33.3%
3回	9	23.1%
4回	4	10.3%
5回	4	10.3%
無回答	1	2.6%
回答者数	39	100.0%
非該当	14	
合計	53	

項目	度数	構成比
3時間	5	12.8%
4時間	2	5.1%
5時間	9	23.1%
6時間	12	30.8%
7時間	0	0.0%
8時間以上	10	25.6%
無回答	1	2.6%
回答者数	39	100.0%
非該当	14	
合計	53	

※回答者数が少ない為グラフ省略

【希望利用時間帯】

希望利用開始時間については、「9時」が15件と最も多く、次いで「10時」が8件、「8時」が4件となっています。

希望利用終了時間については、「15時」が12件と最も多く、次いで「17時」が7件、「14時前」が5件となっています。

(希望利用開始時間)

項目	度数	構成比
7時	3	7.7%
7時30分	1	2.6%
8時	4	10.3%
8時30分	1	2.6%
9時	15	38.5%
9時30分	2	5.1%
10時	8	20.5%
10時30分以降	1	2.6%
無回答	4	10.3%
回答者数	39	100.0%
非該当	14	
合計	53	

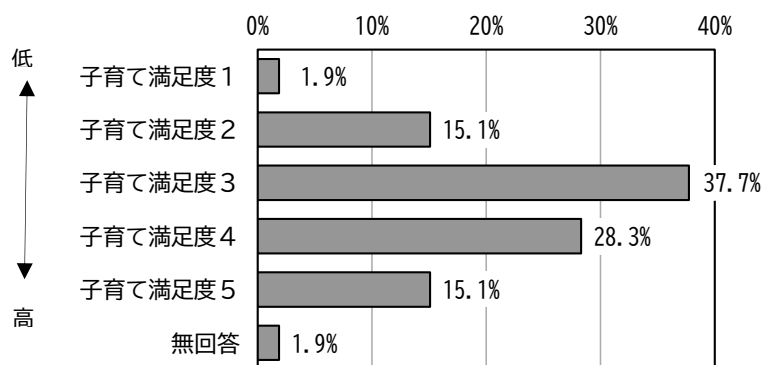
(希望利用終了時間)

項目	度数	構成比
14時前	5	12.8%
14時30分	0	0.0%
15時	12	30.8%
15時30分	2	5.1%
16時	3	7.7%
16時30分	0	0.0%
17時	7	17.9%
17時30分	1	2.6%
18時	4	10.3%
18時30分以降	1	2.6%
無回答	4	10.3%
回答者数	39	100.0%
非該当	14	
合計	53	

※回答者数が少ない為グラフ省略

問15 守谷市は子育てしやすいまちだと思いますか。当てはまる番号を1つ選択してください。

守谷市は子育てしやすいまちだと思うかについては、「子育て満足度3」が37.7%と最も多く、次いで「子育て満足度4」が28.3%、「子育て満足度2」、「子育て満足度5」がともに15.1%となっています。



項目	度数	構成比
子育て満足度1	1	1.9%
子育て満足度2	8	15.1%
子育て満足度3	20	37.7%
子育て満足度4	15	28.3%
子育て満足度5	8	15.1%
無回答	1	1.9%
合計	53	100.0%

守谷市
第3期子ども・子育て支援事業計画策定に関する
アンケート調査報告書

令和6年5月

守谷市 こども未来部 すくすく保育課
〒302-0198 茨城県守谷市大柏 950 番地 1
TEL：0297-45-1111（代表）
